令和5年度 事業報告書

2023 LEAF

鹿児島県 奄美パーク

令和5年度 事業報告書

2023 LEAF

鹿児島県 奄美パーク

目　次

第１　鹿児島県奄美パーク概要 ・・・

（８）第17回　奄美パーク　子どもクリスマス会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
（９）奄美パーク　新春寄席・出張寄席 ・・29
（10）奄美パーク　初春唄あしび ・・30
第4　田中一村記念美術館企画事業
1　奄美関連作家による企画展
（１）奄美大島　想装贈（SOU3）展 ・・31
（２）少女マンガの世界展 in 奄美 ・・32
（３）おもひでの大島紬展 ・・・33
（４）奄美の星空　写真・アート展 ・・34
2　第 2 回 奄美を写す写真展 ・・・35
3　第69回 県美展　奄美関連作家展 ・・・36
4　美術講演会
（１）「川端龍子をご存知ですか－田中一村との意外な接点－」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
大田区立龍子記念館　学芸員　木村　拓也　氏
（２）「アーと心が動く一村さん－奄美の田中一村－」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
鹿児島市立美術館学芸アドバイザー・当館第5代学芸専門員　花山　潤治　氏
5　第22回 奄美を描く美術展 ・・・39
6　第13回 田中一村記念美術館スケッチコンクール作品展 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
7　龍郷町立小・中学校図画工作・美術科学習発表展 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
8　田中一村鑑賞会「夏休み親子バックヤードツアー＆鑑賞会」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
9　夏休みワークショップ「親子草木染め体験」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
10　創作体験教室
（１）日本画講座 ・・・50
（２）写真講座 ・・・51
（３）スマホ写真講座 ・・52
11　その他自主企画事業
（１）学芸専門員派遣授業事業 ・・53
（２）田中一村記念美術館「リモート観賞授業」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
（３）一村キッズクラブ ・・・56
第5　奄美パーク応援隊 ・・61

第1 鹿児島県奄美パーク概要

1 施設設置の目的

鹿児島県奄美パークは，奄美の美しい自然や多様な文化・歴史をわかりやすく紹介した総合展示ホール，奄美シアター及び人々の交流の場を提供するイベント広場からなる**「奄美の郷」**と，奄美の自然を描き集大成させた孤高の日本画家「田中一村」の作品を紹介する**「田中一村記念美術館」**の二つの施設を中核とする奄美群島全体の新たな観光拠点として，奄美市笠利町節田の旧奄美空港跡地に建設された。

2 設置者 鹿児島県

3 開園年月 平成１３年９月３０日

4 指定管理者 奄美群島広域事務組合

5 園長兼館長 宮崎　緑（千葉商科大学国際教養学部教授，
元ＮＨＫ「ＮＣ９」ニュースキャスター）

6 園地面積 約７７，０００㎡

7 総事業費 約７６億円（開園時）

8 施設の概要

(1) **奄美の郷**（さと）（延べ床面積約３，２００㎡）
白い貝殻をイメージした外観
建物内の梁などは，琉球松の大断面集成材でソテツの葉をイメージした造形
○総合展示ホール・奄美シアター（有料）
○アイランドインフォメーション，イベント広場，レストラン，売店

(2) **田中一村記念美術館**（延べ床面積約２，５００㎡）
奄美の海をイメージした池に３棟の高倉が浮かぶ設計。床はイタジイを使用
○常設展示室・特別展示室（有料）
○企画展示室，ガイダンス室，図書資料室，喫茶，ミュージアムショップ

(3) **一村の杜**（もり）（面積約７，０００㎡，平成１９年７月２０日完成）
６つのスポットで構成されている遊歩道
田中一村の奄美での作品に描かれている草木を植栽

(4) **その他の施設**
多目的広場（約３，７８０㎡），野外ステージ，展望台，駐車場（約２４０台）

9 観覧料金（R1.10.1 改定）

共通観覧料：	一　般	６３０円（２０人以上の団体は５００円）
	高・大学生	４２０円（ 同 ３３０円）
	小・中学生	３１０円（ 同 ２４０円）

10 休園日 毎月第１，第３水曜日
（4/29～5/5，7/21～8/31，12/30～1/3は開園）

11 開園時間 ９：００～１８：００（7月，８月は１９：００まで）

12 入館者数 令和６年３月３１日現在　延べ２，８６８千人

13 組織 計１２名（県職員４，市町村職員４，会計年度任用職員３，特別職非常勤職員１）

- 園長兼館長（特別職非常勤）
  - 次長（県）
    - 総務課長（次長兼務）　担当３（県1，市町村1，会計任用（事務補助）1）
    - 事業課長（県）
      - ［奄美の郷］　担当３（市町村2，会計任用（事業推進員）1）
      - ［田中一村記念美術館］　担当３（県1，市町村1，会計任用（事務補助）1）

第2　令和５年度の事業実績について

「奄美の郷」では，総合展示ホール，奄美シアター，アイランドインフォメーションにおいて奄美群島の自然や歴史，文化などの多彩な魅力を紹介し，イベント広場では島唄や伝統芸能などのイベントを定期的に開催しています。

「田中一村記念美術館」では，日本画家「田中一村」の作品を常設展示するほか，企画展示室において奄美関連作家による企画展，小中学生による「田中一村記念スケッチコンクール」などの作品展を年間を通じて開催しています。

令和5年度は，11月に開催された「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」の関連事業として，奄美の郷 11 件，田中一村記念美術館 9 件，計20件が「文化プログラム事業」として実施されました。中でも，かごしま国体の相撲競技が奄美市であったことから，奄美市笠利町出身で，大相撲で活躍した千賀ノ浦親方（元 里山関）を講師に招いた文化講演会には，相撲ファンのみならず多くの地元の方が訪れてくださいました。

また，昭和28年（1953 年）の奄美群島日本復帰から70年目にあたり，「奄美群島日本復帰70周年記念」と銘打った事業を5件実施しました。中でも奄美固有の文化の継承に寄与することを目的に，今年度で17回目となる「奄美パークわらべシマ唄大会」には総勢40名の児童・生徒が出場しました。

奄美群島在住の皆さんに奄美パークのステージで日頃の練習の成果を披露していただく「わきゃステージ in パーク」事業が，年間最多の11件開催された他，お正月恒例のイベントとして定着している「奄美パーク新春寄席」に合わせて，5年ぶりに「出張寄席」として，瀬戸内町と徳之島伊仙町でも開催しました。

田中一村記念美術館では，開館以来続く「奄美を描く美術展」や，2回目となる「奄美を写す写真展」の公募展に今年度も多くの作品が寄せられました。

また「夏休み親子草木染め体験」や「創作体験教室」等の体験型イベントにも多くの参加者が集まり好評を博しました。特に「夏休み親子バックヤードツアー＆鑑賞会」は人気が高く，午前と午後の部の2回に分けて開催しました。

近年の通信環境の整備により，遠隔地の学校と美術館を結ぶ学芸専門員によるリモート授業も定着してきました。

田中一村終焉の家でスケッチや清掃を行う「一村キッズクラブ」の活動も周知され，奄美市内の公園に新しく設置したベンチにモザイクアートを施すなど，外部との連携へ広がりを見せています。

これからも，奄美群島全体の観光拠点施設として，また人々の交流の場所として，奄美群島への誘客を促進し，更なる情報発信と様々な事業を展開してまいりますので，どうぞよろしくお願いいたします。

奄 美 の 郷

田中一村記念美術館

第3　奄美の郷企画事業

1　季節感（年中行事）を取り入れたイベント

（1）あまみっ子フェスタ

ア　開催日時　令和５年５月３日（水・祝）　午前の部 10：30 ～ 12：00　午後の部 13：30 ～ 15：00
イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場
ウ　入場者数　約 600 名（YouTubeLive 配信視聴者数14名）
エ　内　　容

奄美群島内の子どもたちによる郷土芸能の発表や子どもを対象にした各種イベントを開催し，地域の子どもたちの交流を図るとともに，奄美パークの有効利用を推進する目的のもと，毎年ゴールデンウィーク中の恒例イベントとして定着している「あまみっ子フェスタ」を開催した。

午前の部は，節田小学校アマンディー太鼓による勇壮な太鼓の響きで幕を開けた。新メンバーが加入して初めての発表とのことで，緊張しつつも元気な演奏を届けてくれた。続いて登場の Amami Rabbits は，チアダンスを披露し，「レッツゴーラビッツ！」の明るい掛け声を響かせ，キレのある動きで金色のボンボンを振り踊った。奄美高校郷土芸能部は，オレンジ色の揃いのハッピにハイビスカスの飾りを付け，シマ唄「朝花」をじっくりと唄い聞かせた。また，太鼓の響きも軽やかな「六調」では，客席に降りて観客も踊りに誘い，年配の女性らが楽しそうに踊っていた。ゲストのパフォーマンスアーティストＫ＠ITO（カイト）によるステージは，軽妙なおしゃべりで笑いもあり，華麗なジャグリングや手品に子どもたちは多いに沸いていた。

また午前 11 時からは，出会いの広場周辺で，奄美市レクリエーション協会がレクリエーションを行った。バルーンアートのコーナーは行列が出来るほど大人気で，他にも昔ながらの懐かしいコマ遊びやかざぐるま作りなどの体験をたくさんの子どもたちが楽しんでいた。

午後の部の最初は，伊津部小学校さざ波バンドが登場した。島唄をモチーフに取り入れた伝統のオリジナル曲を披露し，ほら貝やチヂン（太鼓），三線など奄美らしい演奏であった。続いて，ダンス CORE がポップスやロック音楽に合わせてパワフルなダンスを披露した。障害のあるメンバーも共にステージに上がり，それぞれの個性を十分に発揮したダンスに大きな拍手が送られていた。続いて，大島高校3年生の時岡優里菜さんと大島北高校2年生の朝岡歩紀香さんがシマ唄を披露した。いずれも各民謡大会などで入賞している実力派で，のびやかで美しい唄声を響かせた。トリを飾ったのは，ゲストのＫ＠ITO で，午前の部とは趣向を変えたパフォーマンスで楽しませ，中でも仮面と水晶玉を使った幻想的なステージには観客も息を詰めるようにして見入っていた。

観客の小学生は「（さざ波バンドの）太鼓がカッコよかったので，やってみたい」，親子連れでいらした方からは「ステージもレクリエーションも沢山楽しめて，いい思い出作りが出来た」などの感想が寄せられた。

（2）ネリヤカナヤフェスタ

① フラダンスパーティー

ア　開催日時　令和5年7月 16 日（日）13：30 ～ 16：00

イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 230 名（YouTubeLive 配信視聴者数13名）

エ　内　　容

奄美の人々は，海の彼方に神々が住む理想郷ネリヤカナヤがあると信じ，島と外の世界を繋ぐ海を信仰の対象としてきた。その風習にちなみ，来園者に奄美の海への興味を高めていただくとともに，地元住民や観光客との交流を図ることを目的とした「ネリヤカナヤフェスタ」のオープニングイベントとしてフラダンスを中心としたステージイベントを実施した。

始めに，宮崎緑園長が「ネリヤカナヤは伝統を守りながら受け継がれてきた考え方の一つ。奄美の人々は恵まれた自然環境と切っても切り離せない中で生活している。奄美の貴重な自然環境について考えていただきながら，本日のイベントを楽しんでください」と挨拶した。

フラダンスは，6団体が日頃の練習の成果を披露した。太鼓演奏を組み込んだ独特な踊りや，ハワイのゆったりとした音楽，リズミカルなポップス音楽，ウクレレなどの楽器演奏に合わせて表現したものなど，それぞれの“フラダンスの世界観”を存分に表現し観客を魅了した。出演後のインタビューでは「会場の皆さんと楽しさを共有出来て嬉しかった。今後もフラダンスを長く続けていきたい」などと語り，観客から暖かい拍手が送られた。

プログラムの中盤では，音楽ユニット Yuzukana が自ら作詞･作曲した3曲のポップスソングを歌った。「カピバラのうた」では，ユニークな振り付けで観客も一緒に踊り，笑顔で楽しむ様子が見られた。

最後は，リコフラダンスが奄美を代表する歌謡曲「島のブルース」に合わせたフラダンスを披露し，観客も一緒に踊るなどして盛り上がった。

【出演】

Unit Makana，Aokai，ハウオリアイフラスタジオ，カレイオハウオリフラスタジオ，リコフラダンス，アロヒイリケアフラスタジオ　ゲスト：Yuzukana

② 奄美の海洋生物写真展

ア　開催日時　令和5年7月 16 日（日）～8月 31 日（木）

イ　場　　所　奄美の郷　アイランドインフォメーション窓側

ウ　入場者数　奄美の郷　7月：3,445 名　8月：5,440 名　合計：8,885 名

エ　内　　容

当写真展は，海をテーマにしたイベント「ネリヤカナヤフェスタ」の一環として，「奄美の海」の魅力を発信することを目的に開催した。

令和 3 年7月26日に世界自然遺産登録となり，島内外から奄美の自然環境や貴重な動植物につ

いて関心が寄せられていることから，奄美群島に生息する生き物の生態調査や研究，また，環境保全など幅広く活動している奄美海洋生物研究会の興克樹会長に写真の提供を依頼した。

魚やウミガメの遊泳する様子や，サンゴの産卵など約40点の海中写真を展示した。親子の来場客は，クジラが水面から飛び上がる写真を見て「よくこんな迫力ある写真を撮影できましたね」と感心していた。

また，海底に不思議なミステリーサークルを作り，近年，新種として発表された「アマミホシゾラフグ」の写真も展示しており，説明を見ていた来場者からは「雄が雌への求愛活動のために作っているんですね。可愛いですね」と感想を述べていた。他にも島外から来られた来場客からは「毎年，このような写真を展示しているんですか」と質問され，展示内容やテーマを変えて展示していることを伝えると，「機会があれば，また見に来たいです」と感想をいただいた。

③ 親子ワークショップ「はしおきを作ろう」

ア　開催日時　令和5年8月 12 日（土）13：30 ～ 15：00
イ　場　　所　奄美の郷 レクチャールーム
ウ　参加者数　親子5組 14 名
エ　内　　容

本イベントは，「海」をテーマにした「ネリヤカナヤフェスタ」の関連イベントとして実施した。台風6号の影響により，当初の8月6日（日）から日程を変更して開催することとなり，参加者数は申込締切時の11組26人から減少し，5組14人であった。

講師は，島内各地で子どもたちを対象にした昔ながらの遊び道具作り等の体験会を開催している奄美手熟師会のメンバーである晶納美加子さん。晶納さんは貝殻を使った工作の講師経験があり，多種多様な貝殻とサンゴを材料とした「はしおき作り」や，参加者が自由に工作する作品についてアドバイスを行った。

参加者は，最初のうちは，サンゴに接着剤で貝殻を貼り付ける作業に苦労していたが，次第に慣れてくると，大きさの異なる貝殻を組み合わせて生き物の形のはしおきを仕上げるなど，自ら工夫して取り組んでいた。

また，講師が用意したハートマークの形に編み込んだ布のコースターを土台に，全面を覆いつくすように貝殻を貼り付けたり，色々な形の貝殻を組み合わせて可愛らしいオブジェを作るなど，笑顔で楽しむ親子の様子が見られた。

ワークショップ終了後，参加者からは「とても楽しかった。来年もこのようなイベントがあれば，また参加したい」と感想をいただいた。

（3）奄美群島日本復帰 70 周年記念
奄美パーク夏祭り「シマジマだより～与論島」

ア　開催日時　令和5年8月 19 日（土）13：30 ～ 15：30
イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場
ウ　入場者数　約 230 名（YouTubeLive 配信視聴者数 8 名）
エ　内　　容

奄美群島の島々から一つの島にスポットを当て，その島の伝統芸能に触れるとともに各島の人々と交流を図ることを目的としたイベントで，今回は「与論島」をピックアップした。与論在住のシンガーソングライターの川畑アキラさん，エイサー太鼓のグループゆんぬエイサーが出演し，与論島の特産品が観客に当たる抽選会も実施した。

オープニングを飾った「ゆんぬエイサー」は，平成4年に結成，現在，結成 31 年目で，約40名で活動をしている。今回は，中高生を中心に 21 名が出演した。「瀧落とぅし」「唐船ドーイ」など，伝統的なエイサーの演目を力強く迫力のある演奏で会場中に響かせた。演奏の合間には“チョンだらー”と呼ばれる道化役に扮した年配の男女6名がユーモラスな踊りを披露し，また，観客に混じって会場を大いに盛り上げるのに一役買っていた。

川畑アキラさんのステージセッティングの合間には，令和4年に行われた沖縄祖国復帰 50 周年記念事業の紹介動画「海がつなげた　こころの絆」を上映した。5分程の短くまとめたものであったが，奄美群島復帰70周年記念とも関連づけることができた。この動画を受けて，川畑アキラさんは「与論小唄」を披露，沖縄でも親しまれているメロディと，与論の地名が出てくる歌詞を紹介した。続いて「与論島慕情」など与論島にちなんだ流行歌や，オリジナルの「走れヨロン号」「ティダ」を熱唱した。

抽選会では，きび酢やもずくそば，モリンガ茶など与論島の特産品を，出演者に解説や抽選を手伝ってもらい，個別の商品や詰め合わせセットにして24名にプレゼントした。当たった人も外れた人も笑顔で，和やかな雰囲気で行うことが出来た。

ラストは，川畑アキラさんとゆんぬエイサーのコラボレーションで「ダイナミック琉球」を披露し，観客も手拍子や歓声でおおいに盛り上がっていた。

（4）フユウンメコンサート～奄美の様々な恵みに感謝する音の収穫祭～

ア　開催日時　令和5年 12 月3日（日）13：30 ～ 15：30
イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場
ウ　入場者数　約 230 名（YouTubeLive 配信視聴者数10名）
エ　内　　容

季節の移り変わりと新年の訪れを感じるこの時期に奄美群島出身のアーティストを迎え，「フユウンメコンサート」と題した音楽イベントを毎年開催している。

今回は，里朋樹さん，Yuzukana，アマゴス，禎一馬さんの4組が出演した。

オープニングを飾った里朋樹さんは，お囃子の楠田莉子さんと共に「一切り朝花」や「ワイド節」の島唄を披露した。また唄の解説をシマグチで行い，ユニークな語りに笑いも起きていた。

続いて，奄美大島笠利町出身の深田譲さんと宮城県仙台市出身シンガーソングライターのあわゆいかなこさんによる夫婦ユニット Yuzukana が出演し，奄美の冬をイメージした曲「けいはんスープ」を披露。かなこさんがまだ赤ちゃんのお子さんを抱っこして唄い，途中，ぐずってしまうなどのハプニングもあったが，観客もあたたかく見守っていた。

続いて，「呼ばれればどこへでも」をモットーに名瀬を中心に活動しているゴスペルグループのアマゴスが出演。“12 月と言えば”でおなじみの「Silent Night」や洋画で使われた「Joyful,joyful」を披露。アカペラも交えた素晴らしい歌声のハーモニーをきかせ，クリスマス感を一気に演出して，会場を盛り上げた。

最後の出演は，徳之島出身で歌手と農業を生業にしている“シンガーソングファーマー”の禎一馬さん。最初の曲は，力強い歌声で「月夜光ル」を会場へ響き渡らせた。また「ウギ節」と「ユイの島～徳之島」では，曲中に行う振り付けの説明を行い，会場にいた観客全員で踊りながら歌った。最後の楽曲「ハイバードー」では，お約束のパフォーマンスを知っている観覧客が，鶏のモノマネをしながら会場をぐるぐる走って周ると，他の観客も釣られて一緒に走って周り，大いに盛り上がった。コンサートの最後は，里朋樹さんが「六調」を演奏し，出演者全員と観客でにぎやかに締めくくった。

（5）奄美パーク春祭り～サンガツサンチ～

ア　開催日時　令和6年3月3日（日）13：30 ～ 16：15
イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場
ウ　入場者数　約 220 名（YouTubeLive 配信視聴者数7名）
エ　内　　容

奄美群島では，旧暦の3月3日に生後初めての節句を迎える女児の健やかな成長を願う風習があり，季節柄「ひな祭り」をイメージして，女性の歌い手を中心にコンサートを開催した。

初めに「2023　ほこらしゃ音楽祭」や島内の他音楽イベントへの出演経験のある向珠理さんが登場。出会いの喜びや別れを惜しむ島唄を情緒豊かに歌い上げた。

続いて，奄美大島出身で，過去に島内の様々な島唄大会で入賞し，現在は，関東を中心に島唄の唄者として活動している辻美里さんが登場。テンポの良い島唄などを披露し，観客も唄に合わせて踊りだすなど，イベントを盛り上げた。

続いて，ライブハウス経営の傍らギタリストでもある西桂吾さんと，奄美在住でボーカル担当の池知里寿霧さんのユニット Kitten Blue が登場し，荒井由実や宇多田ヒカルなどの名曲をカバーし，透き通る歌声を会場に響かせた。

続いて，奄美パークの音楽イベントにゴスペルグループアマゴスの一員として出演経験のあるボーカル担当の川元美穂さんと奄美在住のギタリスト盛保道さんのユニットみほとやすみちが登場し，アメリカのジャズシーンを代表する作詞・作曲家のコール・ポーターの名曲や，アニメ「風の谷のナウシカ」の主題歌をジャズ風にアレンジした優しい歌声で歌い上げた。

続いて「奄美パークわらべシマ唄大会」に入賞経験のある高校3年生の萩原かほさんと時岡優里菜さんが登場。緊張の面持ちながらも，伸びやかで会場に響く歌声で，それぞれ自身にとって思い入れのある2曲を披露した。

その後，宮崎園長から二人に向けて，奄美パークの様々なイベントに出演していただいたことへの感謝と，この春高校を卒業し新しい門出を迎えることへのはなむけの気持ちを込め，感謝状と記念品を贈呈した。

最後の出演は，喜界島在住で鹿児島県や全国の民謡大会での入賞実績がある川畑さおりさんが登場。島唄だけでなく，喜界島応援歌の一つである「故郷の空」などを披露し，美しい歌声で観客を魅了した。

イベントの締めは，唄者全員で六調を演奏し，観客も一緒に踊りながら楽しみ，幕引きとなった。

2　わきゃステージ in パーク事業

（1）「民謡民舞少年少女奄美連合大会」「奄美シマ唄日本一大会」

ア　開催日時　令和5年4月 22 日（土）
　民謡民舞少年少女奄美連合大会　9：30 ～ 12：00
　奄美シマ唄日本一大会 13：30 ～ 17：00
イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場
ウ　入場者数　約 700 名（YouTubeLive 配信視聴者数27名）
エ　内　　容

公益財団法人日本民謡協会及び同奄美地区大会実行委員会主催で，奄美大島，徳之島，喜界島から総勢95人の唄者が一堂に会し，幅広い年代の出場者が自慢の唄声で順位を競った。

「民謡民舞少年少女奄美連合大会」には，小学校低学年の部，小学校高学年の部，中学生の部の3部門に26人が出場し，各部門3位までの9人が東京で行われる全国大会への出場権を掴んだ。小学校低学年の部で優勝した奄美芸能徳之島会の石井開道さんは「練習よりよくできた。元気よく唄えた」と自らを称えた。高学年の部の優勝は，奄美芸能徳之島会所属の峰岡朋輝さんで，姉・歩嬉さんが昨年の全国大会で優勝したことが刺激になったと話し「お姉ちゃんはライバル。いつか追い越したい」と意欲を見せた。中学生の部は，奄美大島のあやまる会に所属し，「奄美パークわらべシマ唄大会」でも優勝した実績がある津畑杏朱さんが勝ち取った。

「奄美シマ唄日本一大会」には，高年の部から成年の部まで7部門に69人が出場した。大会が始まると出場者はもちろん審査員も緊張の面持ちであったが，各出場者の会場に響き渡る伸びやかな唄声に観客から盛大な拍手が送られた。厳正な審査の結果，入賞した23人は「民謡民舞九州大会」への出場権を得た。青年の部で優勝を勝ち取った徳之島民謡研究会の森田美咲さんは「息の伸ばしが上手くできなかった」と反省しつつ「大会に出るのは6年ぶりだが気持ちよく唄えた」と話した。準優勝は，妹の葉月さんで「練習通りにいかなかった。九州（大会）では姉に負けない」と次を見据えた。

大会の最後は，あやまる会の六調に合わせて出場者や関係者がステージに上がって踊るなど，賑やかな締めくくりとなった。

<u>「民謡民舞少年少女奄美連合大会」優勝者</u>
【小学校低学年の部】石井開道（奄美芸能徳之島）
【小学校高学年の部】峰岡朋輝（奄美芸能徳之島）
【中学生の部】津畑杏朱（あやまる会）

<u>「奄美シマ唄日本一大会」優勝者</u>
【高年三部】昇喜代子（名瀬ルリカケス会）
【高年二部】村田頼子（名瀬ルリカケス会）
【高年一部】平久美（北大島会）
【中年の部】福山幸司（北大島会）
【壮年の部】川口成美（北大島会）
【成年の部】松崎博文（北大島会）
【青年の部】森田美咲（徳之島民謡研究会）

（2）2023 奄美　美の競演

ア　開催日時　令和5年5月 14 日（日）14：00 ～ 15：30

イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 300 名

エ　内　　容

「美の競演」は，和装の文化を広めようと美の競演実行委員会が 2004 年から開催しており，開催の度に好評を得ている。

開演の滑り出しは，第1回開催記録の上映を行った。観客は真剣な眼差しで見ており，上映終了後は拍手が鳴り響いた。

続いて，白大島や龍郷柄といった上品で落ち着いた色合いの大島紬や，色とりどりで華やかな京染着物を身にまとったモデルたちによるファッションショーを開催。舞台上のモデルがまとう着物について，司会者が特徴を紹介した。

当イベントを知らなかった来園客も着物ショーが物珍しい様子で，司会者の解説に耳を傾けていた。また，ランウェイを歩く姿を見た客席からは，「綺麗」や「素敵」などといった感想や感嘆のため息がもれ，携帯やビデオカメラで写真や動画撮影をする方も多かった。最後は，着飾ったモデルたちが一同勢ぞろいとなり壮観な眺めであった。

着物ショーの後には RIZMIC DANCE STUDIO の子どもたちによるステージがあり，元気あふれるダンスでイベントに華を添えた。

イベント終了後は，反物やシルクのストールなどが当たる抽選会が開催され，当選番号を読み上げるたび会場では，一喜一憂の声が聞こえ，大いに盛り上がりを見せた。実行委員会の平塚力也事務局長は「実際にモデルが動く姿を見ることで，より着物の魅力が伝わるのでは」と話した。

（3）月島流 儷翔会「第１回 新舞踊発表会」

ア　開催日時　令和5年5月 21 日（日）13：30 ～ 15：00

イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 300 名

エ　内　　容

月島流儷翔会は，2017 年に代表の福沢ゆかさんによって設立された新舞踊の団体で，福沢さんの奄美市芸術文化功労賞受賞記念として，当イベントを開催した。

日本舞踊は，一般的に三味線や太鼓，笛などの邦楽で踊るイメージがあるが，当会の新舞踊（新日本舞踊）は，日本舞踊を基本とした振付で最近の演歌や歌謡曲，J-POP といった，どの世代からも受け入れやすい馴染みのある楽曲を使い，日本舞踊をより身近に親しみやすくしたものとなっている。

今回の公演でも，「海の声」や「愛燦燦」といったおなじみの歌謡曲に合わせて，日本舞踊の洗練された振付で踊り，華やかな着物の衣装替えも見どころだった。中でも小学4年生の姉と4歳の弟ふたりが一緒に披露した「おさるのかごや」は大好評で，あまりの可愛さに魅了された観客が踊り終えた舞台上の子供たちに，お菓子を渡す微笑ましい一幕もあった。

今回が初めての開催であったが，最近の曲を使う物珍しさがあり，普段とは違った日本舞踊だったため，観客は終始賑やかに盛り上がっていた。

（4）龍郷町懐メロ同好会「昭和歌謡祭」

ア　開催日時　令和5年6月 11 日（日）13：30 ～ 16：00

イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 570 名（YouTubeLive 配信視聴者数12名）

エ　内　　容

龍郷町懐メロ同好会の主催で，約30曲の昭和歌謡をバンドの生演奏を伴奏に披露した。

第１部冒頭では，開演前から席が足りないほど待ち望んでいた観客へ向け，出演者全員で「青い山脈」を披露した。主に歌がメインであったが，柿園幸太郎さんが披露した「赤いランプの終列車」では，舞台いっぱいを使った振り付けもあり，会場を盛り上げた。

第2部では，フラオカスタジオが友情出演し，幼児から小学生までのかわいらしいフラダンスや，子どもから大人まで男性のみの力強いフラダンス，大人の女性たちによる華やかなフラダンスと，幅広い年齢層による多様なステージが披露された。

第3部では，飛び入りでトランペット奏者の楠田あゆみさんが出演し，「港町十三番地」をトランペット演奏を交えつつ歌った。出演者は皆個性豊かで，美しい衣装を身にまとい，情感たっぷりに歌声を披露した

観客席からは，曲に合わせて手拍子や応援の掛け声が送られ，特に「銀座の蝶」を歌った永元アサ子さんが去り際に観客に向けて投げキッスをした際には歓声が湧くなど，終始賑やかなイベントとなった。

最後の挨拶で，重原義和会長は「多くの人々の協力で今回も盛況だった。昭和歌謡が多くの人に愛されていることをあらためて感じた」と話した。

（5）ソリストの伝言 Vol. 3　「島のみなさんと共に『音よ舞え』コンサート」

ア　開催日時　令和5年7月8日（土）15：00 ～ 16：30

イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 240 名（YouTubeLive 配信視聴者数5名）

エ　内　　容

世界的バイオリニスト佐藤美代子さんを中心に，昨年に引き続き「ソリストの伝言」シリーズの第3

弾として開催された。

佐藤美代子さんは，パリ国立高等音楽院を首席で卒業後，イギリスやフランス，南米など世界各地で活躍した世界的なバイオリニスト。1度挫折したものの70代で返り咲きを果たし，80歳の現在，軽度の認知症を患いながらもプロの演奏家として活動を続けている。

オープニングは，オルガン奏者の金井章さんが「引き潮」を演奏。ゆったりとした曲調でオルガン独特の音色を奏でた。客席からはこれから「始まるんだ。」というような少しそわそわした様子が感じられた。次に，主催者である前田キヨ子さんが挨拶し，バイオリニスト佐藤美代子さんのこれまでの経歴や，「ソリストの伝言」シリーズ開催の経緯，マイクを通さずに生のバイオリンの音を届けたい旨を熱く語った。

その後，佐藤美代子さんが登場し，バッハの「プレリュード」やビバルディの「夏」，恩師リシュネフスキーの曲などを立て続けに3曲披露した。とても80歳とは思えぬほど繊細かつ力強い演奏であった。

続いて，佐藤ふじをさんと金井章さんによるブラジル音楽や，ミヤタトモコさんも加わりボサノバを披露した。聞き馴染みのある楽曲で，観客の中には，出演者と一緒に踊っている場面も見られた。最後には，奄美在住の詩人・仲川文子さんが美代子さんをイメージして書いた詩に，佐藤ふじをさんが曲をつけた「音よ舞え」を，出演者やコーラス隊，観客も交えて，タイトル名のとおり『島のみなさんと共に』斉唱した。

（6）第２回 ディ！まーじん 「シマユムタ」「シマ唄」でゆらおう

ア　開催日時　令和5年8月 31 日（日）13：30 ～ 15：30

イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 260 名（YouTubeLive 配信視聴者数15名）

エ　内　　容

シマユムタを伝える会は，約30年続いている島口（方言）継承の活動に取り組んでいる団体で，当イベントは，シマユムタを伝える会が主催し，あまみエフエム ディ！ウェイブ！の後援により開催された。

イベントは，阿部ミネ子さんと福山幸司さんによるシマ唄「朝花節」「まんこい節」を皮切りに始まった。“マガ（孫）とゆんきゃぶり（おしゃべり）”のステージでは，今里信弘さんと孫の鈴木莉央さんが島口漫談を披露。鈴木さんは，今里さんから学んでいる島口で自分の作文を読み上げ，会場を大いに盛り上げた。

また，カエルやセミなどの動物の名前や頭や目といった体の部位などを島口で何と言うか？など，観光に来ていたお客さんにも分かるような掛け合いもあった。

“シマユムタイム”のステージでは，シマユムタを伝える会の鈴木るり子会長が司会進行役を務め，安原ナスエさんや才田一男さん，昇喜代子さんの4人で，新婚の頃や小学生の頃の思い出話などを島口で話した。

プログラム後半では，シマ唄「イトゥ」「徳之島ちゅっきゃり節」を平久美さんと福山幸司さんが披露した。また，古仁屋八月踊り研究会の若林京子さんが司会進行を行い，古仁屋八月踊りと六調

を披露し，観客も一緒になって踊り，会場全体が賑わっていた。締めくくりには，薗博明さんによる万歳三唱が行われた。

（7）民謡民舞奄美連合大会

ア　開催日時　令和5年 10 月 21 日（土）11：00 ～ 17：00
イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場
ウ　入場者数　約 400 名（YouTubeLive 配信視聴者数17名）
エ　内　　容

当イベントは，公益財団法人日本民謡協会及び同奄美地区大会実行委員会が主催し，日本の伝統文化である民謡を唄うことにより，その保存と普及を目的とするとともに全国大会の予選として開催された。

参加者は，年代別に高年の部6人，熟年の部10人，中年の部21人，壮年の部29人，成青年の部22人の総勢88人で各島を代表する唄者が一堂に会し，各部門毎に競い合った。各部門の優勝決定後，協会賞争奪戦が行われ，成青年部の岡美里さんが総合優勝に輝いた。

岡さんを含めた各部門優勝者は，来年行われる全国大会への切符を手に入れ，全国から集結した強者達と競い合うこととなる。

大会途中で音響トラブルがあり，一時中断せざるを得ない状況に陥ったが，音響機器に精通している当大会関係者の尽力などもあり，トラブルは軽減し，最後まで行うことが出来た。

また，最後の締めくくりには，山ゆり会による六調が行われ，賑やかな幕引きとなった。

「民謡民舞奄美連合大会」優勝者

【総合優勝】岡　美里（喜界会）

【高年の部】日置　幸男（名瀬ルリカケス会）
【熟年の部】勝　六津江（山ゆり会）
【中年の部】勢田　千代美（北大島会）
【壮年の部】茂木　幸生（名瀬会）
【成青年の部】岡　美里（喜界会）

（8）島んちゅ会「第13回でぃ・まーじんま！」

ア　開催日時　令和5年11月19日（日）13：30～15：30

イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約500名（YouTubeLive配信視聴者数7名）

エ　内　　容

当イベントは，龍郷町のシマ唄教室島んちゅ会の主催で，今回で13回目を迎えた。

主催者を代表する福山幸司さんと平久美さんによるシマ唄「長朝花節」を皮切りに，教室の子ども達によるシマ唄「らんかん橋」「ワイド節」や，大人たちの三線合奏で「イトゥ」「島育ち」など，日頃の練習の成果を存分に披露した。「ワイド節」では，リハーサルの際に歌うタイミングが少しずれるなど緊張した一面が見られたが，本番では打って変わり，元気な歌声が披露された。出演者の多くは，大島紬を着用し，華やかな出で立ちで会場を魅了していた。

ゲストとして，隆柳勘大社中から隆柳勘奈こと大瀬美奈子さんと，孫の松田ここみさんが出演。大瀬さんは真っ白な着物，松田さんはピンクの華やかな着物に身を包み，情感豊かに日本舞踊を披露した。また，フラダンス教室に通う中学生2人が，シマ唄とはがらりと雰囲気を変えてフラダンスを踊り花を添えた。

中盤では，友情出演の本田廣喜さんが「マンコイ」「かんつめ節」を歌い，「生歌でもいいのではないか」と思わせるほどの迫力ある歌声を会場に響き渡らせた。続いて，民謡民舞九州大会で総合優勝を果たした時岡優里菜さんが，普段滅多に披露されることがないシマ唄「後悔（くぅくぇ）」や，新民謡「大島紬の織り美らさ」を歌い観客を魅了した。

後半では，「長雲節」「請くま慢女節」など伝統的なシマ唄を，司会の伊勢勝義さんによる紹介を含め立て続けに7曲披露した。会場全体が一体感のある雰囲気で観客の皆さんもじっくりと耳を傾けていた。

締めくくりの「六調」では，出演者や観客も入り混じって踊り，大いに盛り上がった。

（9）アマービレ吹奏楽団「クリスマスコンサート」

ア　開催日時　令和5年12月16日（土）14：00～15：00

イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約100名

エ　内　　容

当イベントは，奄美市名瀬の社会人で構成され，AiAi広場での演奏会や奄美市民文化祭，また，商店街のイベントなどにも参加し演奏しているアマービレ吹奏楽団の主催で開催された。

オープニングは，吹奏楽のコンサートイベントで多く演奏されている行進曲「ARSENAL」で華やかに幕を開けた。

前半は，若い世代を中心にファンが多いポップバンドMrs.GREEN APPLEの人気曲「ダンスホール」や，昭和に一世を風靡した西城秀樹の名曲「YOUNG MAN（Y.M.C.A）」，ディズニー映画の「リトルマーメイド」「美女と野獣」などのテーマ曲を盛り込んだ「プリンセス・メドレー」を披露した。

演奏の合間には，進行担当の団員が，自身や楽団のエピソードを交えた演奏曲の紹介を行い，演

奏以外でも観客を楽しませた。

後半は，山下達郎の名曲「クリスマス・イブ」や「あわてんぼうのサンタクロース」などの童謡メドレー，竹内まりやの「すてきなホリデイ」，そして，世界中でクリスマスソングの定番となっている「ジングル・ベル」などクリスマスシーズンを彩る曲を演奏した。

来場客は，トランペットやクラリネット，ドラムなどの美しいハーモニーに体を揺らし，また，演奏に合わせて手拍子を叩くなどして終始思い思いに楽しんでいた。

最後は，観客からのアンコールに応え，昭和に流行したフィンガー5の「学園天国」を演奏し，観客を楽しませ，盛大な拍手が会場に鳴り響き，幕を閉じた。

（10）第３回　ほしのうたがきこえる音楽祭

ア　開催日時　令和6年2月4日（日）13：00 ～ 17：00

イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 330 名

エ　内　　容

当イベントは，田中一村記念美術館企画展「奄美の星空　写真・アート展」の関連イベントとして，実行委員を務める荒木マサヒロさんが主催し，島内外で活躍する歌い手，CHiHO，Quartet Trio Duo（カルテットトリオデュオ），詠美衣，ふよやみ，楠田莉子，坂上陽美，kitten Blue（キトンブルー），yuka（ゆか），Yuzukana，PIN soup（ピンスープ）の10組が出演し，それぞれ星にまつわる曲を披露した。

オープニングを飾った CHiHO さんは，グリム童話「星の銀貨」を子守歌のようなゆったりした声で朗読し，観客を独特な世界観に引き込んでいた。

当音楽祭の制作プロデューサーで，FM たつごうでパーソナリティを務め，自身もミュージシャンである西桂吾さんは，Quartet Trio Duo，kitten Blue，PIN soup と3団体のステージに出演。イベントへの想いを歌と音楽に乗せて演奏し，会場全体に響かせた。また，デュオユニット kitten Blue が，「ほしのたより」を披露した際は，ボーカルの池知りずむさんの穏やかな歌声とゆったりとした曲調に，リラックスしすぎて眠りに誘われる観客もいた。

ラストは，神奈川県出身で現在，奄美に移住し企画展にも作品を出展しているシンガーソングライターの PINsoup さんが登場。ギター，ピアノ，フルート，パーカッションで構成されたバンドの伴奏で，当イベントのテーマソングとして作られた「ほしのうたがきこえる」を披露し，柔らかな歌声とサウンドで会場を包み込んだ。

エンディングでは，主催の荒木さん，音楽プロデューサーの西さん及び総合司会を務めた白倉祐子さんの3名でイベントの制作過程についてなどのトークがあり，最後に荒木さんが「来年も田中一村記念美術館で企画展と音楽イベントを実施し，多くの人にもっと星に興味を持ってもらうようにしたい」と語り，和やかな雰囲気の中，イベントは終了した。

（11）第３回　ディ！まーじん「島口でゆらおうディ！」

ア　開催日時　令和6年2月 18 日（日）13：30 ～ 15：30

イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 270 名（YouTubeLive 配信視聴者数12名）

エ　内　　容

約30年続いている島口継承の活動に取り組んでいる団体シマユムタを伝える会が主催し，あまみエフエムディ！ウェイブ！の後援により，今年度2回目となるイベントを催した。

開催日の2月18日は，鹿児島県大島地区文化協会連絡協議会が制定した「方言の日（ふとぅばの日）」ということもあり，あまみエフエムが当イベントの広報・PR のため奄美の郷の古民家前で12時から13時30分まで，一般の観光客や子ども達，大島支庁新川康枝支庁長，奄美パーク宮崎緑園長などをゲストに交えながらラジオの生放送を行い，イベント直前まで広く来場を呼び掛けた。

開幕はシマ唄で，安原ナスエさんと福山幸司さんが「朝花節」「イトゥ」を披露した。次の“シマユムタイム”では，シマユムタを伝える会の鈴木るり子会長が司会進行を務め，湊ムツ子さんや昇喜代子さん，才田一男さんが，それぞれ昔の思い出話をジェスチャーを交えた島口で面白おかしく話した。

島口の発音講座では，沖永良部出身の恵スエ子さん，笠利出身の薗博明さん，宇検出身の鈴木会長の3人で，「目」「米」などの単語が，地域によって発音が異なっていることや，「今日はいい天気ですね」といった簡単な日常会話を紹介し，島口の魅力についてアピールした。

そして，目玉となる島口劇「だいばんかぶ（おおきなかぶ）」では，白い布とソテツの葉で作った“だいばんかぶ”を引き抜く様子を，農作業着風の衣装をまとった演者たちが島口のセリフで劇を演じた。よく知られている話の劇であったことから島口に馴染みのない観光客も楽しんでいた。

終盤では，中学生2人がシマ唄を6曲披露し，締めの六調で会場全体が一体となり賑わっていた。締めくくりには，鈴木会長による万歳三唱が行われイベントを終えた。

3　自主企画事業

（1）奄美の郷ライブステージ

①華麗なる歌と舞 ならびや歌謡ショー

ア　開催日時　令和5年5月 28 日（日）13：30 ～ 15：30

イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 390 名（YouTubeLive 配信視聴者数6名）

エ　内　　容

「奄美の郷ライブステージ」は，奄美にゆかりのある出演者によるイベントを開催することにより，県内外の観光客等に奄美の情報を発信するとともに，地元の方々との交流を図り，また，アーティストの育成にも寄与する事を目的に，毎年度5回様々なテーマで開催している。

第１回目は，ならびや歌謡グループを中心としたライブステージを開催した。

オープニングを飾ったのは，ハウオリアイスタジオの3名で，「モロカイジャム」「エモエモエア」の2曲に合わせてフラダンスを披露した。続いて，Yasmine（やすみん）が中孝介の楽曲「花」に合わせてベリーダンスを元とした創作舞踊を披露した。また，坂西唯紀さんは，ディズニー映画「リトルマーメイド」の楽曲「Part of your world」「不幸せな魂」をミュージカル調の迫力ある歌声で披露。セリフを語る芝居仕立てのパフォーマンスに大人だけでなく，子どもたちも身を乗り出して熱心に見入っていた。

その後は，坂上友香さん，坂上陽美さん，全宇宙フォーク保存会，中野たろさんがオリジナルの楽曲をたっぷりと聞かせ，日舞仙田流の日舞も交えながらのパフォーマンスで会場は和やかな雰囲気に包まれた。

また，ならびや和田＋ TANA-P による「ハゲー音頭」では，奄美ならではの方言を使ったリズミカルな曲調で観客を盛り上げた。

② ダンス！ダンス！ダンス！

ア　開催日時　令和5年6月 25 日（日）13：30 ～ 15：30

イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 290 名（YouTubeLive 配信視聴者数10名）

エ　内　　容

梅雨明けも近い夏の始まりを予感させる時期に，出演者と観客が共に盛り上がり，元気が出る「ダンス」をテーマにしたステージイベントを開催した。フラダンスやフラメンコ，琉球舞踊，日本舞踊，HIPHOP と様々なジャンルのダンスや踊りを楽しめるプログラムを構成した。

トップバッターは，田路フラメンコの皆さんで，スペインの伝統的な音楽にのせて，主宰の田路真由美さんが華麗なステップで靴音を響かせた。4名の生徒さんらも赤い艶やかな衣装で堂々と踊り，コンガという打楽器奏者も交えた「ボラレ」は，CM でよく知られている曲ということもあって，客席からも手拍子や掛け声がかかり，おおいに盛り上がった。

続いての登場は，日本舞踊の「隆柳勘大社中」の皆さんで，2歳児から中学生までの幼児・児童を中心に発表した。童謡「きんたろう」で幼児たちが踊ると客席からは「かわいい」という声がもれ聞こえた。主宰の隆柳勘大さんらは，大島紬を演出に使い，しっとりとした大人の舞踊も見せた。

続いては，フラダンスの「ハウオリアイスタジオ」の皆さんで，明るいリズムのタヒチアンダンスや，男女ペアでのフラダンスを披露した。また，主宰の嘉納愛さんが，ゆったりとした伝統的なハワイ音楽にのせ，黒のドレスで優美なフラダンスを踊った。

休憩後のトップバッターは琉球舞踊「山元孝子琉舞道場」の皆さん。黄色のあざやかな着物に，大きな赤い笠をかぶった衣装で，「四ツ竹」というカスタネットに似た竹製の楽器を打ち鳴らしながら，伝統的な琉球舞踊を披露した。また，男女二人の農作業の様子などを踊ったユニークな舞や，子どもたちの舞の後，よく知られている民謡「安里屋ユンタ」を全員で踊った。客席にいた関係者たちが赤い花を振って応援し，他の観客も手拍子や手振りでこたえ，おおいに盛り上がった。

HIPHOP ダンス B → MATONDS ☆ DANCE STUDIO は，子どもたち総勢40名が，15分間ノンストップで踊り切った。それぞれが個性を見せつつも，互いをリスペクトする精神を感じさせるパワフルなダンスに，客席からは拍手だけでなく，掛け声もたくさん飛んでいた。

プログラムの最後は隆柳勘大社中の皆さんが，龍郷町の応援歌「Go!Go! たつ Go!」を踊り，観客も手拍子でおおいに盛り上がって終演した。

③ なちかしゃコンサート

ア　開催日時　令和5年9月3日（日）13：30 ～ 15：30

イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 270 名（YouTubeLive 配信視聴者数5名）

エ　内　　容

9月18日の敬老の日にちなみ，少し早いが「なちかしゃ（奄美大島の方言で“懐かしい”の意味）」をテーマに，誰もが口ずさめる童謡や昭和歌謡のステージを開催し，島で活動するアーティスト6組が出演した。

トップを飾ったのは，ウクレレ演奏の文谷和博さん。ウクレレ独特の音色でオリジナル曲の「アロハ奄美」と「AMAMI」を披露した。

坂上陽美さんは，誰しも一度は聞いたことがある童謡「ふるさと」や「海」「赤とんぼ」などを，ギターの弾き語りと優しい歌声じっくり聞かせた。

全宇宙フォーク保存協会は，オリジナル曲「花火」「アカバナ」をギターやカホン，オーシャンドラム（波の音）などの多種多様な楽器を活かし演奏した。曲と曲の合間では，バンドメンバーとの掛け合いで観客を笑わせつつ会場を盛り上げた。

YUKI さんは，ミュージカル出演経験もあり，瀬戸内町でボイストレーニングの教室も開いている実力派で，「花（すべての人の心に花を）」や「愛の讃歌」などの名曲を，伸びやかで迫力ある歌声で披露した。

中野タロさんは，東京から笠利に移住してきた方で，奄美で見た光景を歌詞に取り入れた「おんぼろぐるま」というオリジナル曲を渋い歌声で披露した。また，昭和歌謡メドレーの「星のフラメンコ」では，お約束の箇所で自然に観客の合いの手が入り，会場全体に一体感が生まれていた。

最後は，ならびや和田＋ TANA-P が出演した。「一村忌」は，渋いゆったりとした歌声であったが，「ハゲー音頭」では，バックダンサー付きで明るく楽し気な歌声で歌唱した。また，観客も一緒になって踊っていた。締めくくりとして，出演者全員が舞台に上がり，「あの素晴らしい愛をもう一度」を斉唱し，終演となった。

④ ゆらてぃあそびんしょろ

ア　開催日時　令和5年 11 月 12 日（日）13：30 ～ 15：30

イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 150 名（YouTubeLive 配信視聴者数7名）

エ　内　　容

島唄教室山ゆり会の島唄をはじめ，ベリーダンスや日本舞踊，歌謡曲など多種多様な演目が楽しめるステージイベントを実施した。

「山ゆり会」は，子どもから大人まで幅広い年齢層の会員が，島唄や三味線，八月踊りなど，奄美大島北部（笠利方面）の伝統を守り広めるために活動している団体。今回は，プログラムの前半に，子どもたち，中盤に青壮年，中高年の会員が島唄のステージを披露した。

子どもたちの多くは，緊張の面持ちであったが，島唄独特の抑揚を自らの裏声で上手く表現するなど，一生懸命に歌い上げた。青壮年，中高年の会員は，ベテランらしく，安定した美しい歌声を披露し，会場を盛り上げた。

続いて登場した奄美市笠利町在住のバーバロみずきさんは，艶やかなベリーダンスや，会場に響き渡る美しい歌声を披露し観客を魅了した。また，平成20年に奄美支部を創設し，龍郷支部や公民館講座生を含め総勢約70名の生徒が所属し，奄美市民文化祭などのイベントに出演した実績のある日本舞踊藤扇流は，情緒豊かで華麗な踊りを披露し，観客も手拍子でリズムを取りながら楽しんでいた。

奄美パークの各種イベントに数多く出演している和田孝之さんは，奄美ならではの方言を取り入れたおなじみ「ハゲー音頭」などのオリジナル曲を披露し，バックダンサーの陽気な踊りの面白さも相まって，観客も笑いながら手拍子を叩いて楽しんでいた。

最後に，山ゆり会代表の森山ユリ子さんが力強い歌声で島唄を披露し，会場を盛り上げた。その後，出演者が八月踊りや六調を披露し，観客も立ち上がって一緒に踊るなど大きな盛り上がりの中，イベントを終了した。

⑤ 奄美パーク歌謡祭～懐かしの昭和歌謡、新民謡、奄美歌謡まで～

ア　開催日時　令和6年2月 25 日（日）13：30 ～ 15：00

イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 215 名（YouTubeLive 配信視聴者数4名）

エ　内　　容

ご当地ソングとして根強い人気のある奄美歌謡，新民謡を中心としたコンサートを開催し，オリジナルの CD を発売している実力派の7名の歌い手が出演した。

司会を務めた泉清次さんは，軽妙洒脱な語り口で，曲や歌手の紹介を行い，自身も「笠利岬」や，昭和の名曲「高校三年生」を客席に降りて観客と握手をしながら歌うなど会場をおおいに盛り上げた。

平紀久美さんは，「奄美めおと桜」「はたおり娘」などを優しい歌声で披露し，鮮やかな青のドレスと，赤と黒の艶やかな衣装でも魅せた

米重美智子さんは，シックな大島紬姿で「奄美はればれ音頭」「アンコ椿は恋の花」などを伸びやかに歌い上げた。舞台下のお孫さんから花束を渡され，晴れやかな笑顔で受け取る暖かい場面もあった。

久志哲美さんは「奄美三美女伝」や「男の花道」などを，力強い歌声で披露した。司会の泉さんとの掛け合いも面白く，観客の笑いを誘っていた。

迫田豊満さんは，軽やかな振りも交えながら「黒糖酒讃歌」を歌い，明るいリズムに，客席も手拍子や指笛で盛り上がった。

整体師が本業の盛淳一さんは，息子さんに手を引かれて登場したが，歌が始まると力強く「春夏秋冬恋ごよみ」を歌い切った。

瀬戸山八重美さんは「名瀬セレナーデ」を明るい歌声で披露した。間奏では掛け声がかかるなど，観客席の友人たちが盛大な応援を送っていた。

最後は全員で「島のブルース」を歌い，踊り出す観客もいて最後まで盛り上がりを見せた。観客は高齢者が大半であったが，手拍子や指笛，掛け声も飛び出すなど盛り上げ上手で，出演者も乗っているのが感じられた。

（2）奄美群島日本復帰 70 周年記念
第 17 回 奄美パーク わらべシマ唄大会

ア　開催日時　令和５年５月５日（金・祝）
　　午前の部 10：00 ～ 11：40，午後の部 13：00 ～ 15：00
イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場
ウ　入場者数　約 500 名（YouTubeLive 配信視聴者数18名）
エ　内　　容

当大会は，奄美の将来を担う子どもたちが，シマ唄を通じて奄美固有の伝統文化への理解を深め，シマ唄文化を広く後世に伝える機会となることを目的として毎年開催している。

奄美群島日本復帰70周年記念大会と銘打った本大会には，奄美大島内から，小学生低学年の部に 11 名，小学生高学年の部に17名，中学生の部に12名の計40名が出場し，自慢の歌声を競い合った。

小学生低学年の部では「らんかん橋」を歌った原琴子さん，同高学年の部では「よいすら節」を歌った原美波さん，中学生の部では「行きょうれ節」を歌った奥野乃佳さんが見事な歌声を披露し，優勝を勝ち取った。また，優勝した3人以外の入賞者及び他の出場者も緊張しながらも堂々とした歌声を披露した。

中学生の部で優勝した奥野乃佳さんは「抑揚を付けて，歌詞の感情を考えながら納得できる唄が歌えた」と振り返り，「民謡民舞少年少女大会が目標。これからも頑張っていきたい」と次を見据えた。

表彰式では，宮崎緑園長による受賞者への表彰を行い，会場からは入賞した出場者を称える盛大な拍手が送られた。最後に山元眞琴審査委員長が講評を行い「本日，出場された皆さんは奄美の文化であるシマ唄を精一杯表現していただいた。受賞された方も受賞を逃した方も立派な奄美の文化の継承者。今やシマ唄は世界に誇る奄美の文化となっている。誇りや自信を持って世界に羽ばたいていただきたい」と出場者を激励した。

小学生低学年の部
優勝　原　琴子　（朝日小学校２年）

準優勝　大山　煌人　（笠利小学校１年）

第３位　竹山　凛　（笠利小学校３年）

小学生高学年の部
優勝　原　美波　（朝日小学校４年）

準優勝　奈良　恵美　（笠利小学校４年）

第３位　橘　聖奈　（笠利小学校５年）

中学生の部
優勝　奥　野乃佳　（朝日中学校２年）

準優勝　藤原　梨月香　（田検中学校３年）

第３位　萩原　ふく（芦花部中学校３年）

（3）第4回　ウォーターパーティー in 奄美パーク

ア　開催日時　令和5年8月 11 日（金・祝）10：30 ～ 12：00
イ　場　　所　奄美パーク 多目的広場
ウ　参加者数　16 チーム×4名　計 64 名
エ　内　　容

屋外の多目的広場を活用し，暑い夏の野外遊びの定番・水鉄砲を使ったチーム対抗バトルゲームを開催した。4人 1 チーム（小学生以下の子どもが一人以上参加すること）で募集し16チームが参加した。

終始曇り空だったが，所々晴れ間も見え，気温も高くなる中，熱中症対策を各自にお願いして，ゲームがスタートした。

金魚すくいのポイをマジックバンドで頭部に固定し，相手チームのポイを狙って撃ち合い，ポイの破れた数と残った紙の面積によって勝敗を決する。4チーム4グループによる予選リーグ戦を行い，勝ち点の多い2チーム，計8チームで決勝トーナメント戦を行い順位を決定した。

家族で結成したチームや，友達同士の小学生のみのチーム等，様々な構成だったが，特にハンデ等は設けず試合を行った。大人も子どもも水まみれになりながら，ポイを狙って撃ち合った。小回りがきき，水除け用に設置したテントに隠れる事ができる子どもたちの方が体力やすばしっこさで勝り，大人よりもかえって優勢だった。また，帽子をかぶっているとポイが破れにくいという指摘があり，放送で公正な試合を呼び掛けた。

白熱の試合の結果，優勝は，子供3人と大人1人で結成された「フジエ家」，準優勝は子ども2人と大人2人で参加した「海平（かいぺい）」に決定し，賞品の花火詰め合わせセットを贈った。その他，参加者全員に参加賞としてお菓子の詰合せを配布した。

開催終了後は，疲れた表情の大人や子ども達も見えたが，まだまだ元気いっぱいだった子ども達からは，「楽しかった！また参加したい！」などの感想が聞けた。

（4）奄美パーク サマーコンサート

ア　開催日時　令和5年8月 27 日（日）13：30 ～ 15：30
イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場
ウ　入場者数　約 200 名（YouTubeLive 配信視聴者数8名）
エ　内　　容

夏休み等を利用して訪れる帰省客や観光客，又，地元住民の方々に奄美パークを楽しんでいただくとともに，奄美の音楽の魅力を発信することを目的として，島内の小中学生や社会人の吹奏楽団によるコンサートイベントを開催した。

アマービレ吹奏楽団は，社会人の団体で奄美パークでもたびたび定期演奏会を実施している。この日は，アニメやジャズ，J-POP，ディズニーなど多彩な曲を演奏。長年継続してきた実力を十分に発揮し観客を魅了した。

伊津部小学校さざ波バンドは，先輩から受け継がれてきた島唄をモチーフとしたオリジナル曲を披露。三味線や太鼓，ホラガイなどを力強く演奏し，八月踊りを取り入れたパフォーマンスで会場を盛り上げた。

龍南中学校吹奏楽部は，地元5集落の敬老会にも招かれて演奏をするとのことで，人気の「川の流れのように」など3曲を披露した。

社会人で結成された瀬戸内町吹奏楽団がじゅまるは，6名と小編成ながらも，息の合ったハーモニーで，「小さな恋のうた」などの歌謡曲をアレンジした5曲を披露した。

金久中学校吹奏楽部は，生徒たち自身が曲紹介を行ない，「睡蓮花」の演奏では，タオルやハンカチを振って盛り上げてくれるように観客にお願いすると，客席も応えてロックコンサートのように盛り上がっていた。

出演者からは「日頃から支えてくれている保護者や仲間に，感謝の気持ちで演奏した」「多くの観客に演奏を聴いていただき，また，手拍子をするなど楽しんでいただけて嬉しかった」などと感想をいただいた。

（5）奄美パーク　わくわく遊び広場

ア　開催日時　令和5年9月 24 日（日）10：00 ～ 16：00

イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 700 名

エ　内　　容

当イベントは，地元の親子連れなどの来園客に様々な遊びの体験ができる場を設け，地域の人々との交流や奄美パークの利用促進を図ることを目的として開催した。

「スーパーボールすくい」「ぬり絵・ぬり絵風船」「ストラックアウトゲーム」「輪投げ」「お菓子釣り」「バスケットボールシュートゲーム」の6種類のゲームを実施。人気があったのは景品がもらえるゲームで，「スーパーボールすくい」や「お菓子釣り」は，午後の早い時間帯で景品がすべてなくなるほどの盛況であった。

一方で，参加者は，プレイするだけのゲームでも興味を持って笑顔で楽しそうに体験していた。「ぬり絵・ぬり絵風船」では，用意したブースだけでは席が足りず，後ろの別のブースにも参加者が溢れた。また，「ストラックアウトゲーム」や「バスケットボールシュートゲーム」は，出来るまで何度もチャレンジする参加者もいた。

午後１時30分からは，奄美手熟師会による工作体験も実施した。

「アルミホイルアート」は，ハガキほどの大きさの段ボールにボンドを塗ることにより凹凸を作り，その上からアルミホイルを貼り付け，ステンドグラスのように色を塗って完成させるもので，参加者は様々な色付けを行い，思い思いに楽しんでいた。

「神の目作り」は，浅い水辺に生え，食用や薬用に使用されているマコモの葉を，木の枝に幾何学模様のように巻き，魔除けの飾りを作るもので，参加者は，作り方に戸惑いながらも講師のお手本を参考にアドバイスを真剣に聴いて，上手に完成させていた。

他にも，マジックバンドなどを使った「風車作り」や，丸く切り抜いた段ボールとタコ糸を使った「円盤作り」などを実施した。各講師のレクチャーを真剣に聴きながら，子供も同席した保護者も夢中になって工作に励んでいたのが印象的であった。

（6） 奄美パーク ハロウィンイベント

ア　開催日時　令和5年 10 月 29 日（日）10:00 ～ 16:00

イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 1,500 名

エ　内　　容

地元の人々との交流や奄美パークの利用促進を図ることを目的に，近年，日本でも定着しているハロウィンイベントを開催した。本イベントではポスターやブログ等で仮装をしての来場を呼び掛けた。

イベント広場には，「まじょっ子ぼうしわなげ」「ハロウィン神経衰弱」「めだま移しおばけ」「箱の中身は何だろな？」の4種のゲームと，「ぬり絵」を楽しめるコーナーを計5か所配置。またステージ上には，バルーンで装飾したフォトブースを設けた。さらに，古民家は一部の雨戸を閉め，暗がりに電飾を吊るしてお化け屋敷コーナーとした。

開場直後から，思い思いの仮装をした多くの親子連れが訪れ，ハロウィンスタンプラリーで回るようになっていた「お化け屋敷」や「箱の中身は何だろな？」の2ブースは長蛇の列となった。

ステージ上のフォトブースでは，可愛らしいお姫様の仮装をした子や，流行りのアニメの仮装をした子どもたちがポーズを決め，大人たちは様々な角度から撮影をするなど賑わっていた。

お化け屋敷では，スタッフの迫真の“おどかし”に泣き出す子もおり，古民家の外まで「キャー！」という叫び声が響いていた。

来場者からは，「お化け屋敷が怖かった」や「また遊びに来る！」などの感想が聞かれた。イベント広場いっぱいに来場者がおり，混み合う場面もあったが，写真撮影やゲームの順番など来場者同士で譲り合い，終始，和やかで楽しい雰囲気のイベントが開催できた。

（7）奄美群島日本復帰 70 周年記念
奄美パーク文化講演会「奄美から大相撲へ　私の相撲人生」

講師：千賀ノ浦親方（元 里山関）

ア　開催日時　令和5年 12 月 10 日（日）13：30 ～ 15：00

イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 150 名

エ　内　　容

本格的な講演会が催される機会が少ない離島で，島の皆さんが文化に触れ，学ぶ機会を提供することを目的に，年に1度，各界の著名人や文化人を招いて文化講演会を行っている。今年度は，10月にかごしま国体相撲競技が奄美で開催されたこともあり，奄美市笠利町出身で，地元での人気も高い千賀ノ浦親方（元 里山関）に，相撲人生を語ってもらうと共に，奄美の人々と相撲の関わりについて，改めて知る機会となるよう講師を依頼した。

千賀ノ浦親方は，昭和56年，奄美市笠利町生まれ。鹿児島商業高校，日本大学相撲部を経て，平成16年に大相撲に入門。平成30年に引退するまで十両優勝など様々に活躍し，現在は，後進の育成などに取り組んでいる。

講演は，舞台上に飾った笠利町の後援会などから送られた化粧まわし二本についての話から始まり，スライドを使って，小学1年生の時に初めて相撲大会で優勝し，トロフーや大きな木箱に入ったそうめんをもらって嬉しかったことや，相撲にまい進した中高生時代について語った。

また，平成26年，幕内で勝ち越しがかかった高安戦の動画を上映した。当時も話題となった一戦で，結果は反則負けであったが，対戦中の体の状態や気持ちについて詳しく解説があり，観客も興味深く聞き入っていた。

その他，体のメンテナンスやトレーニングについての話では，自分なりに工夫した四股の踏み方を実演し，足の上げ方や筋肉の使い方など実践的な訓練法を披露した。

引退を決意して臨んだ最後の一番の動画では，勝った瞬間に，会場の観客から暖かい拍手がおこり「奄美大島の方々から沢山の声援をもらって，約35年，大好きな相撲人生を歩んできた。これからは，相撲と奄美大島へ恩返しをしていきたい」と講演を結んだ。

講演後の客席からの質疑応答では，現在，相撲に取り組んでいる少年からの「体が小さくても，どうやったら勝てますか？」という質問に，「自分を知り，自分の得意技を見つけること，前に出る力をつけることも大事」と答え，さらに経験を踏まえた目標設定やメンタルのトレーニングについても丁寧に語った。また，相撲の選手だった奥様の話題や，好物は山羊汁で場所中の活力源だったという話なども多いに盛り上がっていた。

（8）第 17 回　奄美パーク　子どもクリスマス会

ア　開催日時　令和5年 12 月 24 日（日）13：30 ～ 15：00
イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場
ウ　入場者数　約 730 名（YouTubeLive 配信視聴者数58名）
エ　内　　容

毎年恒例となっているクリスマスイベントで，今年度もレクリエーション等のステージイベントと，島内企業からの協賛品等によるクリスマスプレゼントの抽選を行った。

ステージイベントは，奄美看護福祉専門学校かいご・福祉学科の皆さんによるレクリエーションで幕を開けた。保育士や介護士を目指している学生たちの明るく元気な歌や掛け声に合わせて，子どもたちも楽しそうに体を動かしていた。続いて，坂西ユキさんがミュージカルの楽曲を唄いながら，客席から登場し，クリスマスにちなんで「アメイジンググレイス」などを豊かな声量で歌い上げ，また「きよしこのよる」をオルガンの演奏に合わせて観客と一緒に歌った。体操パフォーマンスを披露したのは，ティダスポーツクラブの山下先生で，キレのあるダンスで始まった。マットを使った体操では「ブリッジが出来る子は舞台に上がって」と客席に呼びかけたところ，10人以上の子どもたちが立候補し，10秒間のブリッジを全員が成功させていた。最後には，パイプ椅子を三段に積み上げた上で逆立ちをするパフォーマンスを見せ，観客は大きな拍手を送っていた。

また，アイランドインフォメーションの一角で，川畑哲章さんによるバルーンアートの配布を行った。予定より早い13時前から子どもたちが集まり始め，川畑さんは軽妙なおしゃべりをしながら，リクエストに応えてバルーンを手早く作り上げていた。一時，列がエレベーター前まで伸びるなど大人気で，終了時間も大幅に越えたが，最後に並んだ親子まで丁寧に対応していただいた。

クリスマスプレゼント抽選は，WEB を利用しての事前申し込み制とし，1767 件の応募があった。イベント中に，スライドを利用し協賛企業の紹介を行った。パークが用意したプレゼントと協賛品を合わせて 197 件の当選者をイベントの最後に発表した。当選者へは冬休み期間中の 1/8 日までの引き替えを案内したところ，家族で来園しパーク内を見学する姿も多く見られた。感染症防止対策により令和2年度から WEB を利用した抽選を行っているが，4回目となる今年度は苦情や混乱もなくプレゼントを配布することが出来た。

（9）奄美パーク新春寄席・出張寄席

ア　開催日時・場所

令和6年1月5日（金）18：00 ～ 19：30（瀬戸内町きゅら島交流館大ホール）

令和6年1月6日（土）13：30 ～ 15：00（奄美の郷　屋内イベント広場）

令和6年1月7日（日）10：30 ～ 12：00（伊仙町ほーらい館癒てぃなホール）

イ　入場者数

令和6年1月5日（金）瀬戸内町　約 50 名

令和6年1月6日（土）奄美パーク　約 200 名（YouTubeLive 配信視聴者数4名）

令和6年1月7日（日）伊仙町　約 30 名

ウ　内　　容

普段，落語などの寄席演芸に触れる機会が少ない奄美群島の方々に，生の落語を楽しんでいただくことを目的に，新春恒例のイベントとして開催している。今年の寄席は，1月5日の瀬戸内町での公演を皮切りに，6日に奄美パーク，7日に伊仙町の各会場で，計3公演を実施し，落語家真打の三遊亭鬼丸師匠，二ツ目の金原亭馬太郎さん，芸人のウクレレえいじさんの3名が出演した。

瀬戸内町公演は，最初に馬太郎さんが，落語の楽しみ方についての小噺を交えながら，お灸の熱さに我慢できることを自慢する男の噺「強情灸」を披露した。続いて鬼丸師匠が登場し，過去に家族旅行で奄美を訪れた際のエピソードや落語家の階級についての小噺を交えながら，落語「勘定板」を披露した。ウクレレ漫談のウクレレえいじ氏は，素朴な語り口ながらも，芸能人の物真似や歌真似を披露し，観客も演奏に合わせて掛け声をかけるなど，会場をおおいに盛り上げた。トリは鬼丸師匠の落語「芝浜」。突然大金を手に入れた男が妻の機転の利いた嘘で夢だと信じ込む噺で，登場人物の心情も細やかに表現し，物語の展開の面白さも相まって会場から笑いが巻き起こっていた。

奄美パークでの公演では，開演前から多くの方々が来場し賑わった。第一席目は馬太郎さんが，息子が悪知恵を絞って父親から巧みにお小遣いをもらう噺「真田小僧」を披露した。息子の狙い通りに騙される父親の描写に観客も笑って楽しんでいた。続いて，鬼丸師匠が登場し，2人の男がお互いの口癖を禁句とするゲームを行う噺「のめる」を披露した。ウクレレえいじさんのウクレレ漫談にも，多くの観客が合いの手をいれたりして楽しんでいる様子が見られた。トリは鬼丸師匠が再登場し，性格の違いで関係が上手くいかない夫婦の噺「夫婦長短」を披露した。登場人物の話し方や様子を巧みな話術や顔の表情などで表現し，観客も笑いながら楽しんでいた。

伊仙町での公演では，最初に鬼丸師匠が，使用する道具や物語の展開についての説明を行い，その後，馬太郎さんが，子どもでも楽しめる子狸の恩返しの噺「狸札」を披露し，親子連れの観客も楽しそうな様子で聴き入っていた。続いて，鬼丸師匠が，ある親子が詐欺グループの簡単に見破れるような嘘を信じる様子を描いた「新粗忽長屋」を披露した。ウクレレえいじさんの漫談の後，トリに鬼丸師匠が「ちりとてちん」を語った。他人の食べ物にケチをつける男に仕返しを行う噺で，手拭いや扇子も巧みに使って登場人物の様子を表現し，観客も終始，笑いが絶えなかった。

今年は，奄美パークだけでなく，瀬戸内町と伊仙町での出張寄席を実施し，両町教育委員会との共催によるイベントとなった。広報など尽力いただき，無事，公演を終えることができた。

（10）奄美パーク 初春唄あしび

ア　開催日時　令和6年1月 14 日（日）13：30 ～ 15：30

イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場

ウ　入場者数　約 360 名（YouTubeLive 配信視聴者数33名）

エ　内　　容

「唄あしび」とは，三味線に合わせて座の人々が次々と即興で唄を出し合い，掛け合いながら唄う奄美の伝統文化である。この伝統にちなんで，島唄を始めとする唄や舞踊などで新春を祝うステージイベントを開催した。

トップバッターで登場したのは，島唄のあやまる会。唄者として活躍している平田まりなさんが司会進行をしつつ，太鼓や三線を演奏し，子どもたちをメインとして手遊びを交えた「うんにゃだるや」や「ワイド節」の唄と踊りを披露した。かわいらしい子ども達の伸び伸びした歌声に，観客席からは自然と手拍子や拍手が送られた。

続いて，笠利町に教室を開設している「新舞踊 月島流 儷翔会」の皆さんが，馴染みのある現代の曲に日本舞踊を基本とした振り付けを合わせた新舞踊を披露した。「左官職人こね太郎」という曲では，4才の男の子が出演し，舞台上に出てきたときには，あまりの可愛さから観客席からはどよめきが起った。他にも，代表を務める福沢ゆかさんが「愛燦燦」に合わせて凛々しさと力強さあふれる新舞踊を披露し，会場を魅了した。

笠利体操クラブは，約20名の子供たちが出演し，曲に合わせて側転やバク転，ブリッジなどの体操の技を次々と披露した。2曲目の「アイドル」では，大縄跳びや，個人での縄跳びの技を披露。歌詞に合わせて「アイドル！」と，掛け声も元気いっぱいで，観客も笑みがこぼれていた。

続いての登場は，龍郷町戸口集落の戸口子ども会。ここ数年は，コロナ禍で活動を中止していたが，今年度から，子供たちだけの種下ろしが復活し，約30人の子供たちが八月踊りを披露して会場を盛り上げた。

最後に，奄美パーク 応援隊が日頃練習している六調の演奏を披露した。出演者が舞台や観客席で踊り，観客も一緒に踊っていた。最後には，出演者によるお祝いの投げ餅を行い，飛び交う餅に客席はおおいに盛り上り，賑やかで楽しい雰囲気で公演を終えた。

第4　田中一村記念美術館企画事業

1　奄美関連作家による企画展

（1）奄美大島　想装贈（SOU3）展

ア　開催期間　令和５年７月1日（土）～7月 17 日（月）
イ　場　　所　田中一村記念美術館　企画展示室
ウ　来場者数　2,438 名
エ　内　　容

奄美の植物をテーマとした写真・奄美紅型帯や大島紬の十人十色のコーディネート写真などを展示することで，大島紬のいろいろな着こなしや楽しむ心を，多くの方へ感じてもらい，奄美の地域産業や植物に興味を持ってもらうことを目的に，奄美大島想装贈展実行委員会を事業主体として開催された。

奄美紅型作家の漆原かおりさんは，自身が手掛けた奄美の動植物をモチーフにした色鮮やかな帯や制作工程を解説するスケッチブック等を展示し，大島紬の多彩なコーディネートを紹介し，大島紬の魅力を発信した。

藤野隆三郎さんは，島中を巡って撮影された奄美の四季折々の草花の写真を展示し，当企画展を彩った。奄美の植物の写真と大島紬を一緒に展示し，奄美の植物が大島紬の柄のモチーフになっていることを紹介することによって，自然と文化の繋がりを再認識する機会を提供することができた。

大島支庁着装クラブは，メンバーによるさまざまな大島紬の着こなしや活動の軌跡を写真で紹介した。ポートレート撮影は芸術写真家の武部守俊さん。会期中は，展示室内で音楽を流して雰囲気づくりもされながら，大島紬の装いで来場者へ展示作品の解説を丁寧にされており，好評であった。

来館者からは，「島の伝統である大島紬を“奄美紅型”という新しい技術で魅せてくれて，いつ見ても素晴らしく残していってほしいです」「大島紬と背景がすごく合っていて，とても素敵でした。私も大島紬を着てみたくなりました」「“ナツトウダイ”など植物の写真を見られてよかった」等の感想をいただいた。

〇関連イベント
フロアトーク・あやまる会　島唄　令和5年7月１日（土）11：00 ～

（2）少女マンガの世界展 in 奄美

ア　開催期間　令和5年7月 22 日（土）～8月 13 日（日）

イ　場　　所　田中一村記念美術館　企画展示室

ウ　来場者数　2, 101名

エ　内　　容

事業主体である特定非営利活動法人アマミーナは，設立以来，奄美の地で「STEAM 教育」における「ART s」は何を指すのか，何を含めるべきなのか，その多様性と実践カリキュラムについて発表，実践してきた。その集大成である「少女マンガの世界展 in 奄美」は，「2023国際交流学会＆シンポジウム in 奄美」の特別展として，奄美の観光振興や美術（情操）教育に大きく寄与することを目的に開催された。

「少女マンガの世界展 in 奄美」は，海外における日本のポップカルチャーへの認識を高めることを目的に，NPO法人アマミーマが2005年から行ってきた世界巡回展（北米，南米，ベトナム，韓国など6カ国30ヶ所以上を巡回）の一つで，今回が巡回展の最終展示会場となった。

主催者の徳雅美理事長は，「少女マンガの歴史は，時代に合わせて変化した日本の女性史そのもの。作家，マンガそのもののエネルギー，パワーを感じ取ってもらえたら」との思いで，戦後から現代に至るまで少女マンガの発展に貢献してきた作家12人の複製原画55点を展示した。

オープニングイベントでは奄美看護福祉専門学校エイサー部によるエイサーが披露され，開催に花を添えた。

スペシャルオンライントークでは，漫画家の里中満智子氏が「王子様に助けてもらうのではなく，自分で考え，決断しながら人生を歩む姿を描くことを大切にしてきた。若い世代にも，自分がどうしてもやりたいこと，今の世の中に足りないことを描いてほしい」と語った。

来館者からは，「まさに展示してある作品を読んで大人になった世代。どれも懐かしい」「大好きな作家さん，子どもの頃憧れていた作品がこんなに美しい原画から生まれていたのだと，感激しました」と感想をいただいた。

○関連イベント

①オープニングイベント（奄美の郷　屋内イベント広場）

エイサー演舞（奄美看護福祉専門学校エイサー部）

令和5年7月 22 日（土）15：30 ～ 16：00

②スペシャルオンライントーク（奄美の郷　屋内イベント広場）

ゲスト：里中満智子（漫画家）「職業としての少女マンガ家」

令和5年7月 22 日（土）16：00 ～ 17：00

（3）おもひでの大島紬展

ア　開催期間　令和6年1月 12 日（金）～1月 23 日（火）

イ　場　　所　田中一村記念美術館　企画展示室

ウ　来場者数　1,306 名

エ　内　　容

大島紬を展示することを通して，大島紬の伝統や素晴らしさを伝えるとともに，それを守り継いでいくことの大切さを地域の方や子ども達へ啓発することで，奄美の観光振興や情操教育に寄与することを目的に，鹿児島県大島支庁を事業主体として開催された。

島の伝統工芸品である大島紬の魅力や技術力を，着物の所有者の想いやストーリーと共に展示・紹介することで，身近な存在として再認識を図ろうと企画された。

本場奄美大島紬協同組合や個人らから借り受けた着物34点を，一点一点にまつわるエピソードや持ち主の思い出が綴られた解説パネルと併せて展示し，家族ゆかりの品や職人が思いを込めた品などの他，明治初期や内閣総理大臣賞に輝いた品など貴重な大島紬が並んだ。

また，16体のトルソーに紬を着付け，モダン，カジュアル，クラシックなど多彩なコーディネートを紹介し，来場者を魅了した。

来場者からは，「タイトル通り，一着一着思いが沢山つまっている素晴らしいものばかりで，作品の解説を読んで涙が出そうになりました」「奄美の大切な宝を，若い世代にもっと知ってほしい，引き継いでほしいと思います」「娘の為に仕立てた振袖を孫の代までつないでいこうと思っています。とても気持ちの温かくなる時間が過ごせました」「着物の展示会はあまりないのでとても楽しく拝見しました」「締織に従事しております。このような展示で広く知られていくことを期待しています」など感想をいただいた。

（4）奄美の星空　写真・アート展

ア　開催期間　令和6年1月 27 日（土）～2月 12 日（月・振休）

イ　場　　所　田中一村記念美術館　企画展示室

ウ　来場者数　1,702 名

エ　内　　容

奄美の星空フォトジャーナリストの荒木マサヒロさん，カニアーティストのあおきさとみさん，木の実アーティストの成実さん，色彩と歌のアーティストの PINsoup さん，シンガーソングペインターの詠美衣さんら，作家5名による「奄美の星空」をテーマにしたグループ展を実施した。

作家それぞれがイメージする奄美の星空を，絵画や写真，工芸で表現したユニークな作品が展示され，来場者を魅了した。

会期初日には，エフエムたつごうでパーソナリティを務める西桂吾さんを司会に迎えてギャラリートークが実施され，作品に込められた作家の思いを直接聞くことができる貴重な機会となった。

また，会期中にはカニアーティストのあおきさとみさんによる特別無料プログラム「絵からきこえる音を鳴らそう」も実施された。参加者は企画展の作品を鑑賞し，感じ取った“音”を言葉や身体で表現し，共有して感想を述べ合った。最後は，あおきさんがヴォーカルを務める音楽ユニットふやよみの楽曲「くじらくるりら」を大きなクジラの作品の前で合唱した。

来館者からは，「各アーティストさんのマニアな世界観がより深く表現されていて，凄く濃かった。ゆっくり堪能しました。ありがとうございました」「星空を眺めるという経験を，もう何年もしていないことに気がつきました。今夜から星空を意識したいと思います」「作家さんから説明していただき，とても分かりやすく鑑賞できました」と感想をいただいた。

○関連イベント

①ギャラリートーク（田中一村記念美術館　企画展示室）

令和6年1月 27 日（土）11：00 ～ 12：00

②特別無料プログラム「絵からきこえる音を鳴らそう」（田中一村記念美術館　企画展示室）

令和6年2月 11 日（日）14：00 ～ 15：00　参加者 25 名

2　第２回　奄美を写す写真展

ア　開催期間　令和5年5月3日（水・祝）～5月 28 日（日）
イ　場　　所　田中一村記念美術館　企画展示室
ウ　来場者数　3,816 名
エ　内　　容

世界遺産に登録され，美しい自然や独特な地域文化などに囲まれた奄美をテーマに全国の写真愛好家から広く作品を募集し，優れた写真展を開催することで，奄美の文化振興・観光の発展に寄与することを目的として開催した。

全国から237点の素晴らしい作品が寄せられ，審査の結果，入賞10点，入選135点の作品が選ばれた。

審査員長を務めた井本久美氏（南海日日新聞社　編集局報道部記者）は，「作品レベルの高さ，表現方法の多様さ，島への愛情の深さに感銘を受けた次第です。特に，若い世代の出品の多さは目を見張るほどで，応募総数の約4割近くを中高校生が占めています。スマートフォンの普及や SNS の発達で撮影行為が身近なものとなり，“写真”という概念が日々更新されていることを肌で感じました。本展は画像加工を認めることで写真の“自由度”を高めていますが，被写体を捉える多角的な視点，独創的な思想，豊かな感性の基盤を枯渇させることなく，今後も奄美の魅力を写していってほしいと思います」と評した。

来館者からは，「日頃の何気ない風景がこんなに違った見え方になるのだと改めて感じた」「昨年よりもパワーアップしていました」「次回，出展してみたい。今後も続けてほしい」等の感想をいただいた。

〇関連イベント

授賞式　令和5年5月7日（日）11：00 ～

〇受賞者

【奄美を写す写真展大賞】 廣司　健人
【田中一村記念美術館賞】 谷　よう子
【優秀賞】 ROCKY ARAKI，前島　創一朗，徳田　美加子
【佳作】 土屋　尚幸，稲村　真矢，松岡　天真，川原　蓮成　【ヤング賞】 前島　沙綾

【大賞】廣司健人『朝日が照らす海』

3　奄美群島日本復帰 70 周年記念
第 69 回 県美展　奄美関連作家展

ア　開催期間　令和5年6月 10 日（土）～6月 25 日（日）
イ　場　　所　田中一村記念美術館　企画展示室
ウ　来場者数　2,428 名
エ　内　　容

県美展は，県内の美術文化の振興を目指して昭和29年の第1回開催から，半世紀を越えて春の総合芸術展として広く親しまれ，奄美群島からも多くの作家が作品を出品している。今年で第69回を迎える県美展において入賞，入選した奄美群島在住の作家の作品を一堂に集めて展示することで，島内外の美術愛好家に紹介するともに，奄美群島の芸術発展に寄与することを目的として開催し，奄美関連作家の作品を，洋画10点，彫刻 1 点，工芸 2 点，写真12点の合計25点を展示した。

初日のフロアトークでは，鹿児島県美術協会会員の稲光政さんと，当館学芸専門員による作品解説と，出品した作家数名が自らの作品の紹介を行った。田中一村記念美術館賞を受賞された宮元篤司さんも来島され，フロアトークへ参加するとともに他の出品者らとの交流を図っていた。

今年度は，全体の作品数は少なかったが，県美展大賞が奄美在住作家であったこと，また，田中一村記念美術館賞が大島紬を用いて作られた工芸作品であったことなどから，見応えのある展示会となった。

来館者からは，「一つ一つの作品に作者の思いがそれぞれに感じられてとても素晴らしかった」「この季節の風物詩。日頃を忘れてホッとできる時間。これからも是非続けて下さい」等の感想をいただいた。

〇関連イベント
　フロアトーク　令和5年6月 10 日（土）13：30 ～ 14：30

4　美術講演会

（1）「川端龍子をご存じですかー田中一村との意外な接点ー」
講師：大田区立龍子記念館　学芸員　木村　拓也　氏

ア　開催日時　令和5年7月9日（日）10：30 ～ 12：00
イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場
ウ　来場者数　35 名
エ　内　　容

「田中米邨」から「田中一村」に改名し，日本画画壇に挑戦するきっかけとなった「青龍展」を主宰した川端龍子の生涯や作品を長年研究し，川端龍子研究の第一人者である大田区立龍子記念館の木村拓也学芸員を講師に迎え，川端龍子と田中一村の関連性や後年の作品に与えた影響など，専門的な話を直接伺える貴重な機会を提供することで，田中一村記念美術館の認知度アップと更なる集客につなげることを目的として講演会を開催した。

講演では，①龍子はどのような画家だったのか，②龍子が目指した芸術，③龍子と一村との出会いの3章構成で，大画面の「会場芸術」を提唱した日本画家・川端龍子の画業を通し，田中一村との関わりについて紹介した。

また，青龍社が運営する「青龍展」に入選した一村の作品「白い花」を取り上げ，出品一覧に龍子直筆の解説が添えられたこと，展示場所が龍子の作品の隣だったことから「相当高い評価を得ていたことが推測される」と木村氏は分析。「龍子が若き一村に自分が追求すべき芸術の違いを突きつけたことで，一村は奄美という運命の地で独自の画境を開き，南の琳派と称される『田中一村』が誕生したのではないか」と述べた。

聴講者からは，「川端龍子のことを詳しく知る機会を得て貴重でした。青龍展と“秋晴”落選のいきさつも興味深いものでした」「田中一村についての知識はあったが，龍子は名前だけ耳にした程度だったので，良い学びの機会となった。ぜひ龍子記念館にも足を運びたい」等の感想をいただいた。

（2）「アーと心が動く一村さん－奄美の田中一村－」
講師：鹿児島市立美術館学芸アドバイザー・当館第５代学芸専門員　花山　潤治　氏

ア　開催日時　令和5年9月2日（土）　14：00 ～ 15：30
イ　場　　所　奄美の郷　屋内イベント広場
ウ　来場者数　54 名
エ　内　　容

元・学芸専門員で，一村が奄美で過ごした19年間の生活圏だった「有屋・和光・浦上・大熊」地区について，当時の地理や住民への聞き取りなどの調査を行った花山潤治氏を講師に迎え，田中一村の命日である9月11日を前に，講演をとおして，今一度奄美で生きた一村の姿を幅広い世代に伝え，次世代に継承する一助とすることを目的として開催した。

講演会前日には，あまみエフエムの生放送番組「ゆぶぃにんぐアワー・夕方フレンド」に花山氏と美術館職員が出演し，来場を呼びかけた。

講演で花山氏は，「一村の作品は（競争で勝ち抜いた）プレミアムか（競争のない）ラグジュアリーか。他人に意味はなくても自分が納得できればよいスーパーカーのような唯一無二のラグジュアリーなもの。誰のためでもなく，自分のために絵を描きたかった」と訴えた。

また，一村が奄美に来た理由を「勉強のために来たのではない。生涯を飾る絵を描くため」と強調。「競争相手のいない所（画風）で花を咲かせることで（脚光を浴び）みんなに届くようになった」と説いた。

その他，一村は「計画的によく働き，資金を貯めては絵に専念するという生活をしており，Ｉターンの先駆者といえる」と表現した。

聴講者からは，「記録に基づいて，時代順にお話いただき，とてもわかりやすかった」「プレミアムとラグジュアリーで例えられていたのが面白かったです。新鮮でした」等の感想をいただいた。

5 奄美群島日本復帰 70 周年記念
第 22 回　奄美を描く美術展

（１）本展

ア　開催期間　令和5年 10 月 14 日（土）～ 11 月5日（日）

イ　場　　所　田中一村記念美術館　企画展示室

ウ　来場者数　3,068 名

（２）巡回展

ア　開催期間　令和5年 12 月2日（土）～ 10 日（日）

イ　場　　所　瀬戸内町立図書館・郷土館　2階　視聴覚室

ウ　来場者数　180 名

エ　内　　容

「奄美」をテーマに全国から作品を募集し，奄美の素晴らしさを全国に発信しようと始まった本美術展は，地元企業や美術愛好家など，多くの方々の御支援により開館以来毎年開催している。

今回22回目を迎えた本展では，全国から113点（油彩・水彩・アクリル・日本画など）の作品が寄せられ，厳正な審査の結果各賞作品を選出し，入賞12点，入選48点の合計60点の作品を展示した。

瀬戸内町で実施した巡回展では，入賞12点と入選作品の内，賞候補に選ばれた作品16点を加えた計28点を展示した。

今回，審査員長を務めた遠藤彰子氏（武蔵野美術大学名誉教授）は，「レベルが非常に高く，多様な表現の作品が見られる実に面白い公募展だ。審査をしていて，選外にする作品が見当たらず苦労した。奄美独特の自然や文化，祖先から引き継いでいる伝統や思い，この土地でしか味わえないテーマからインスピレーションを得た作品の数々が放つエネルギーはすさまじく，審査するのはおこがましいと思えるほどの緊張感があった。表現するということに年齢は関係ない。時代を感じ，自分を見つめて研鑽を積んで欲しい。出品者の皆さんと同じく，私も一絵描き，表現者だ。一緒に頑張っていきましょう」と評した。

また，他イベント等の関係で会期末になったが，11 月4日（土）は，企画展示室にて授賞式を行い，大賞を受賞した愛知県在住の水上卓哉さんを始め，8名の入賞者が出席した。授賞式では奄美を描く美術展実行委員会の宮崎緑会長より賞状とトロフィーを授与し，大賞の水上さんからは，「昨年初めて奄美を訪れ，豊かな自然や一村の絵画作品に感動した。今回の大賞受賞は一村さんからのご褒美のよう。これからも奄美を描き続けたい」とコメントをいただいた。

本展来場者からは，「皆さんの作品に圧倒された。奄美を愛する気持ちが伝わってくる」「いろいろな奄美の捉え方があり，色があり，みなきれいですばらしかった。ぜひ来年は出品してみたい」「特に受賞作品は表現力や作者の思いが素晴らしい。長く回を重ねて行って欲しい」と感想をいただいた。

巡回展来場者からは，「瀬戸内町でこんなに絵画が観られて，子どもたちにも嬉しい企画でした」「奄美の美しさを色々なやり方で描いていて，とてもすてきでした。古仁屋だと，このように色々な人の絵を観ることができないので，とてもありがたいです」「作者の描くときの感想なども一言あったらと思う」と感想をいただいた。

燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会文化プログラム事業
〈奄美群島日本復帰 70 周年記念〉

第 22 回
奄美を描く美術展

【本展】
会　　期：令和５年 10 月 14 日（土）～ 11 月５日（日）
休館：10 月 18 日（水），11 月１日（水）
観覧時間：９:00 ～ 18:00（最終日は 16:00 まで）
会　　場：田中一村記念美術館　企画展示室　［ 観覧無料 ］

【巡回展】
会　　期：令和５年 12 月２日（土）～ 12 月 10 日（日）
休館：12 月４日（月）
観覧時間：９:00 ～ 17:00（最終日は 16:00 まで）
会　　場：瀬戸内町立図書館･郷土館２階　視聴覚室　［ 観覧無料 ］

大　賞

『 雨やどり 』 F15 号 油彩
水上　卓哉（愛知県）

［ 評 ］
この絵を見た瞬間から惹きつけられた。インパクトがあり，観る者に向けてエネルギーを発散させてくる。どっしりと存在感のあるカエルとそれを取り巻く空間の色が美しく，濁りがない。描き方には勢いがあって非常に良い。ドリッピングが画面全体に大きな流れをつくり，雨にも見えて独特の空気感を醸成している。細かく描いていくことも絵のひとつの方法だが，この作品は大胆な筆さばきの中に細部が宿っている。大賞にふさわしい作品である。

田中一村記念美術館賞

『 錦秋 』 S15 号 油彩
大塚　尚子 （秋田県）

［ 評 ］
画面に散りばめられたフォルムや色からリズムが感じられる。そしてインパクトがある。正方形の画面は絵づくりが非常に難しいが，直線と曲線，赤や黄色や緑などの色，それらを効果的に使い成功している。具象画の中の抽象性は大事だ。これは何だろう，と絵に呼びかけたくなるような感覚を鑑賞者に呼び起こさせる。そのような力をもつ作品である。

優秀賞

『 追憶・嘉鉄 73 』 P12 号 オイルパステル
嶋田　敏夫 （京都府）

［ 評 ］
画面づくりの斬新さが素晴らしい。奄美固有の動植物が画面に散りばめられていて，それだけでも楽しさを感じるが，よく見るとそれらが画面中央部に奄美大島を形作っている。このような遊び心ある作品はまさに「見るための絵」だ。眺めていて，なんだか嬉しい気持ちになれる。

優秀賞

『 ネリヤカナヤより招く 』 F15 号 工芸
植村　恭子 （鹿児島市）

［ 評 ］
モノクロの画面だが，まわりの作品に負けない強さ，大きさがある。画面全体のザラッとした質感やフワッと抜けた部分，そして差し色の青。技術力が高く，観ていて心地よい。奄美で語り継がれている，海の向こうの理想郷「ネリヤカナヤ」。今まさに神がやってくる，私たちはその瞬間に立ち会っているかのようだ。

『 湯湾の森 』 S15 号 油彩
横山　陽一 （神奈川県）

［ 評 ］
上へ上へとリズムよく伸びていこうとする木々や美しく咲く花々。細かく描かれた葉や，尾の先が白いケナガネズミ。自然をよく見てよく知っている作者だからこそ描けるのであろう。緑の色を使うのはとても難しいが，この作品では色の関係性が破綻することなく調和がある。とにかく，観ていて本当に楽しい作品だ。

『 魚大好き 』 63×47cm 水彩
源五郎　光 （龍郷町）

［ 評 ］
一般的な観念に捉われない，これほどまでに大胆かつ独創的な表現こそ，絵の醍醐味だ。作者は，自分の内面から湧き上がってくるフォルムや色を用いて，自由に楽しみながら描いたに違いない。観賞する側も楽しくさせてくれる。このシリーズをこれからも続けてほしい。

『 泥染めのバケツ 』 F15 号 水彩
高山　法雄 （熊本県）

［ 評 ］
これほどの物質感，量感を水彩で描くことができるのは相当な技量だ。表現を突き詰めていく時，やはり「描き切る力」が必要となる。この力がないとどんなに素晴らしい発想をもっていたとしてもそれを形にすることはできない。この絵には作者の「描き切る力」が滲み出ている。

佳作〈奄美の海賞〉

『朝、街に見えた』F15号 油彩

中嶋　友美（奄美市名瀬）

［評］
泳いでいる人間の姿が，自由を象徴しているかのようだ。まわりの魚たちも印象的で，「明日に向かって私たちは共に生きていく」というメッセージ性を感じる。ダイナミックな構図も素晴らしい。

佳作〈奄美の空賞〉

『Into The Wild Sea
- 荒海へ -』F15号 日本画

KUMA-YOSHI（神奈川県）

［評］
画面いっぱいに広がる荒海が美しい作品だ。波打ち際に佇む一羽の鳥の姿は，混迷の現代を生きる私たちに重なる。人は一人では生きていけないが，時には一人思索する時間も必要だと，この絵は説いている。

佳作〈奄美の杜賞〉

『つむぐ想い』S15号 アクリル

渡瀬　俊輔（奄美市名瀬）

［評］
実力があり，これからが楽しみな作家だ。表現したいものがわかっているし，作品の課題を自分で解決する力がある。丁寧に描写された人物やルリカケスには，観る者の心を捉えて離さない美しさが感じられる。

コンロンカ賞

『つむぐ』F8号 油彩

石山　英樹（佐賀県）

［評］
様々な要素を組み合わせ独特な世界観をつくり出している。特に画面手前のサンゴ礁に紬のイメージを重ねることで奄美の海を象徴している。作者は画力のある人だ。次回はぜひもっと大きな作品にチャレンジしてほしい。

ソテツ賞

『島とハグロトンボと
ケナガネズミ』F15号 日本画

中尾　克依（奈良県）

［評］
細部までしっかり描かれた，美しく気品のある作品だ。それに，絵の中に「風」が感じられる。良い絵には不思議と「風」が吹いていて，この作品がまさにそうだ。ずっと眺めていたいと思わせてくれる。

［審査総評］

レベルが非常に高く，多様な表現の作品が見られる実に面白い公募展だ。審査をしていて，選外にする作品が見当たらず苦労した。奄美独特の自然や文化，祖先から引き継いでいる伝統や思い。そういったこの土地でしか味わえないテーマからインスピレーションを得た作品の数々が放つエネルギーはすさまじく，審査するのはおこがましいと思えるほどの緊張感があった。

表現するということに年齢は関係ない。時代を感じ，自分を見つめて研鑽を積んでほしい。出品者の皆さんと同じく，私も一絵描き，表現者だ。「一緒に頑張っていきましょう。」と心からエールを送りたい。　（第22回奄美を描く美術展 審査員長　遠藤彰子）

入　選

作者名	作品名	サイズ 素材等	作者名	作品名	サイズ 素材等
田中　孝林	★　暖かい日の下で	F15 号 油彩	本間　泰伸	アマミタカチホヘビ	F15 号 アクリル
竹松孝太郎	★　静隠	39×57cm 芭蕉布･岩絵具	Tako★MASARU	杜を駆ける	M15 号 アクリル
丸山良二郎	★　さがり花［Ⅰ］	S15 号 水彩	今村　富枝	森へ漕ぎ出す	F15 号 油彩
小島　尚子	★　奄美の杜の楽しみ	F15 号 油彩	田河美紀子	風景	F15 号 油彩
すずきあけみ	★ I LOVE AMAMI R5. 土浜立神、台風前夜	S15 号 アクリル	池田三樹子	海の彼方に	F10 号 アクリル
坂本　千春	★　南の島で見る夢	F15 号 アクリル	瀧田　秀子	爽やかな風	F15 号 アクリル
前田　正樹	★ 一夜花（サガリバナ）	F15 号 日本画	盛　こころ	いつかの日の風景	F15 号 油彩
福本　恒久	★　夕陽が沈む	F15 号 アクリル･クレヨン	林　美 緑	ガジュマル	F15 号 油彩
喜納　祥子	★　崎に向かう	F12 号 油彩･アクリル	川越　陽詩	森のいろどり	F15 号 油彩
上田　泰徳	★　T／O	F15 号 日本画	渡　洋 子	散歩道	F15 号 油彩
重村　敏光	★　共生の森	S15 号 日本画	前島美和子	底力	F10 号 水彩
大川　厚子	★　追想	F10 号 水彩	山川　未桜	ネリヤカナヤの入口	62×50cm 水彩
福島　秀實	★ 世界自然遺産の主達	F15 号 油彩	清　嵩 二	波打ち際のコンポジション	S15 号 アクリル･油彩
海江田　宏	★　あまみのうみ	F15 号 油彩	平井　泰輔	フェリーでお買い物	F15 号 油彩
成　実	★ 一夜花～やこうぼくさがりばなきからすうりげっかびじん～	F15 号 アクリル･墨	Kate O'Callaghan	水面下の宝	F15 号 アクリル
中村　哲郎	★　磯松の花咲く	F10 号 日本画	清　勝 人	森の朝	F15 号 油彩
野間　まり	奄美に行きたい！Ⅱ	F10 号 油彩	住　静 子	聖霊の杜	F15 号 油彩･アクリル
元井　晴美	加計呂麻通い 海上タクシー	F15 号 アクリル	中田　久男	家路	47×46cm 油彩･テンペラ
小宮　英子	遥かなる奄美	F10 号 水彩	栄　俊 久	島影	F15 号 アクリル
佐藤由起子	ヤッコソウ	P8 号 水彩	屋　幸 子	夕ぐれの楽しいひととき	F15 号 水彩
新島　修二	奄美の自然農園（篠川）	F15 号 油彩	藤崎　義久	Amami 懐景 アダンの小道	F8 号 油彩
藤本　信司	ミステリーサークルを.	P15 号 日本画	栄　ミ ホ	白昼・山羊と出合う	F10 号 アクリル
玉城　邦子	島の夕暮れ	F15 号 油彩	森山　逸子	森の中のアカショウビン	F15 号 油彩
藤岡　邦枝	アダンの島	F12 号 日本画	才田菜美可	わたしの友達	F15 号 アクリル

※　★印は「賞候補作品」

※　「入賞作品 12 点」及び「賞候補作品 16 点」は，瀬戸内町で開催する巡回展に展示（会期：令和５年 12 月２日～12 月 10 日）

6　第13回　田中一村記念スケッチコンクール作品展

ア　開催期間　令和5年11月18日（土）～12月10日（日）
イ　場　　所　田中一村記念美術館　企画展示室
ウ　来場者数　2,814名
エ　内　　容

奄美群島内の小・中学生を対象に奄美の自然や生活，伝統行事などをテーマにスケッチ作品を募集し，応募のあった1,145点のうち，入賞・入選作品409点を展示した。どの作品も対象をよく観察し，技法や彩色，素材などを工夫して丁寧に描かれており，奄美の自然や文化を愛する心や作品に対して一生懸命に取り組んだ様子が感じられた。

授賞式には，受賞した児童生徒10名とその家族や関係者が参列し，宮崎緑館長から一人一人賞状と副賞を手渡した。授賞式後は受賞者によるギャラリートークを行い，学芸専門員から審査講評やアドバイスをもらいつつ，作品に関する工夫や思いなどの質問に答えていた。

来場者からは，「この会場の児童・生徒の作品は奄美の造形教育の宝物だと，どの作品を見ても思った。この企画を続けて頂きたいと願っている」「色々な絵を見た。自分には何が足りないかも知れたし，今後の絵に活かしていきたい」など感想をいただいた。

〇関連イベント

授賞式　令和5年11月18日（土）14：00～　田中一村記念美術館　企画展示室

〇受賞者

【小学校低学年の部】

田中一村記念美術館賞	重　侑李	奄美市小宿小学校2年
大島教育事務所賞	岡野　鷹之心	瀬戸内町油井小学校2年
優秀賞	小田島　さわ	奄美市名瀬小学校1年
優秀賞	奥田　真衣	大和村大棚小学校1年

【小学校中学年の部】

田中一村記念美術館賞	安田　あさ希	奄美市名瀬小学校4年
大島教育事務所賞	元　優誠	奄美市奄美小学校4年
優秀賞	野田　詩歩莉	与論町茶花小学校4年
優秀賞	要田　朝陽	龍郷町赤徳小学校4年

【小学校高学年の部】

田中一村記念美術館賞	碇山　愛陽奈	龍郷町龍瀬小学校5年
大島教育事務所賞	松澤　美里	伊仙町面縄小学校6年
優秀賞	伊東　悠	奄美市朝日小学校6年
優秀賞	春山　虹	天城町岡前小学校6年

【中学生の部】

田中一村記念美術館賞	宮山　大志	知名町知名中学校2年
大島教育事務所賞	今榮　拓翔	和泊町和泊中学校2年
優秀賞	林　梨乃	奄美市東城中学校1年
優秀賞	田中　琉介	知名町田皆中学校1年

田中一村記念美術館賞　受賞作品

小学校低学年の部　重　侑李

『不思議なもようのハブ』

小学校中学年の部　安田　あさ希

『奄美の夜のカーテンコール』

小学校高学年の部　碇山　愛陽奈

『くやしい夏の思い出』

中学生の部　宮山　大志

『マテリヤの滝』

7　龍郷町立小・中学校図画工作・美術科学習発表展

ア　開催期間　令和5年 12 月 23 日（土）～令和6年1月8日（月・祝）
イ　場　　所　田中一村記念美術館　企画展示室
ウ　来場者数　1,417 名
エ　内　　容

学校の教育活動の中で制作した作品を美術館に展示することにより，児童・生徒の造形的な創造活動への興味・関心，意欲を高めるとともに，美術館をより身近に感じられる機会にし，また，保護者や地域住民，観光客の方々に対して，学校教育における図画工作・美術科の学習内容や児童・生徒の学校での頑張りを感じていただく機会とすることを目的に開催した。

本発表展では，龍郷町の小学校 7 校と中学校 3 校の児童・生徒が授業で制作した粘土などの立体作品を56点，絵画や版画などの平面作品を418点出品してもらい，学校ごとに展示した。

来館者からは，「子ども達一人一人，絵に個性があって楽しませていただきました。子ども達の想像力に驚きました。これからも，このような作品展をやってほしいです」「我が子はもちろんですが，他のクラス，学年，学校の子ども達の授業での作品を見ることができ，とても感動しました」「自分の学校以外の生徒の作品も見ることができてとても楽しかったです」「とてもカラフルで素敵でした。海や船のモチーフや自然が多いのは，とても尊いことだと感じました」と感想をいただいた。

8　田中一村鑑賞会「夏休み親子バックヤードツアー＆鑑賞会」

ア　開催日時　令和5年7月 30 日（日）
〈午前の部〉10：00 ～ 11：30〈午後の部〉13：30 ～ 15：00

イ　場　　所　田中一村記念美術館

ウ　参加者数　午前の部　31 名，午後の部　28 名

エ　内　　容

美術館の役割や施設の機能，普段見ることのできない美術館の裏側などを紹介することにより，美術館をより身近に感じてもらうとともに，美術文化の継承，発展に理解を深める機会とし，また，本物の美術作品を参加者同士による対話的な鑑賞によって，自分なりの見方，考え方を深める機会とすることを目的に開催した。

学芸専門員によるバックヤードツアーは参加応募者が多数だったため，午前の部と午後の部の2回に分けて開催した。

ツアーの前半では，美術館の4つの役割や当美術館のルールなどについてクイズを交えながら紹介し，館長室や学芸員室など普段見ることのできない美術館のバックヤードを案内した。館長室では，館長席に座り記念撮影を行った。また，収蔵庫や機械室，荷解庫などの部屋の役割についても学芸専門員が紹介し，参加者達は，熱心にメモを取りながら解説を聞いていた。

後半は，展示室にて鑑賞会を行った。鑑賞会では，一村の生涯を作品とともに説明し，参加者は，親子で学芸専門員に質問しながら解説を聞いていた。

参加者からは，「友だちを連れて来たいと思いました」「奄美の自然について，絵が描きたくなりました」「普段見られないバックヤードの見学や，解説付きのツアーはとてもおもしろかったです。少しでも子どもの記憶に一村さんの絵が残ってくれると嬉しいです」「意外性のあるクイズや，ここでしか知り得ない一村の歴史を知れて楽しかったです」との感想が挙がった。

9　夏休みワークショップ「親子草木染め体験」

ア　開催日時　令和5年8月 20 日（日）10：00 ～ 15：00
イ　場　　所　田中一村記念美術館　屋外管理棟（美術館職員駐車場）
ウ　参加者数　20 名
エ　内　　容

奄美市笠利町在住の染色家，（一社）Amami しま作捌繰顧問の植田正輝氏を講師に招き，夏休みに親子で楽しめる草木染め体験を開催した。

参加者は，まず始めに自然の素材を生かした染色技法を学び，染色液を作るためパーク内に植えられている福木（フクギ）を親子で採取した。

採取したフクギを煮出して染色液を作っている間に，持参したティーシャツやタオル，バッグなどを輪ゴムやスズランテープで縛り，模様を付ける準備を行った。

講師が用意した染料（藍）と，フクギから煮出して作った黄色の2色を使って，染める，媒染する（ミョウバンで発色・定着させる作業），乾かす作業を繰り返し行い，仕上げに塩水や酢につけて色を固定し，水洗いをして乾かして完成させた。

参加者からは，「思うようにいかないところもまた楽しかった。古くなったり，汚してしまったものなども再利用することができ，とても満足です」「デザインを考えるのが難しかったが，染め具合を見るのが楽しかった」「身近に生えている木でこのようなきれいな色に染まることがおもしろかったです」と感想をいただいた。

10　創作体験教室

（1）日本画講座

ア　開催日時　令和5年6月4日（日）10：00 ～ 15：00
イ　場　　所　奄美の郷　レクチャールーム
ウ　参加者数　15 名
エ　内　　容

日本画家で当美術館初代学芸専門員の西村康博氏を講師に招き，墨や日本画水彩絵具を使って絵を描く活動を通して，日本画の特徴や表現することの楽しさを味わい，美術館や田中一村を身近に感じてもらうことを目的として開催した。

参加者は，持参した植物や野菜，果物などのモチーフをよく観察しながら鉛筆でアタリ（線を描き，大まかな位置決めをする下描き作業）をつけ下描きをし，講師の助言を受けながら作品制作を行った。彩色作業では，普段使い慣れたアクリル絵具との発色の違いに苦戦しながらも，濃淡に注意し，日本画独特の描き方を学んだ。

講評では，「参加者全員がモチーフの色の微妙な違いをよく意識して丁寧に仕上げ，作品を完成させていて良かった。今後も，日常的に絵を描いてレベルを上げてほしい」と助言をいただいた。

参加者からは，「普段一人で描いているので，自分で気付かない点など指摘してもらって勉強になった」「初めて日本画を描けて楽しかった。アクリルとちがい難しいところもあった」と感想をいただいた。

（2）写真講座

ア　開催日時　令和5年 11 月 12 日（日）10：00 ～ 14：00
イ　場　　所　奄美群島国立公園ビジターセンター奄美自然観察の森（龍郷町）
ウ　参加者数　6 名
エ　内　　容

自ら被写体を探し，カメラを使って撮影する活動を通して，表現することの素晴らしさを味わう機会とし，また，プロの写真家の指導を受けることで，高度な写真撮影技術を習得することに加えて，撮影時のルールやマナーを学ぶ機会とすること，奄美自然観察の森での活動を通して，奄美群島の自然へ興味・関心を高める機会とすることを目的として，講師に写真芸術家の武部守俊氏を迎え，中・高生向けに実施した。

始めに武部氏より，一眼カメラの持ち方や構え方に加え，マニュアル撮影で重要な“しぼり”や“シャッター速度”について解説していただき，カメラの基本操作について学んだ。参加者たちは一人一台支給されたミラーレス一眼カメラを実際に操作して試し撮りを行い，また，武部氏の撮影した写真を見ながら理解を深めた。

説明後は森の中へ移動し，植物や虫など，自ら撮影したい物を探して撮影に挑戦した。途中，参加者は講師からピントの合わせ方や明るさの調整，構図の取り方などを教えてもらうと，すぐに実践し，撮影を楽しんでいた。

また，奄美自然観察の森の指導員，川畑力氏から奄美の森についてのレクチャーを受け，シイの実の試食やシイの木に寄生する“ヤッコソウ”を見せていただき，被写体について学ぶ事によって，また新たな視点で撮影できるのではないかとアドバイスを受けた。

参加者はその後屋内へ戻り，撮影した写真の中から自分のお気に入りを2枚選んで印刷し，作品を他の参加者へ紹介して，気に入っているポイントや工夫したことなどを発表し，講評をそれぞれ受けた。

講師は，「参加者の飲み込みが早く，どの作品も初心者の作品とは思えないくらい素晴らしく，驚いた。今回の講座をきっかけに，これからもカメラや写真に興味を持ち，趣味としてでも続けて欲しい」と話した。

参加者からは，「一眼カメラを初めて使ったが，使い方を学べてよかった。これからももっと写真を撮りたいと思った」「自分のイメージと完全にマッチさせることが難しかったが，それもカメラの魅力で引き込まれ，とても楽しい時間だった」と感想をいただいた。

（3）スマホ写真講座

ア　開催日時　令和6年2月3日（土）10：00 ～ 12：00
イ　場　　所　奄美の郷レクチャールーム，一村の杜
ウ　参加者数　11 名
エ　内　　容

奄美の星空フォトジャーナリストの荒木マサヒロ氏を講師に迎え，スマートフォンのカメラ機能を使って撮影する活動を通して，表現することの素晴らしさを味わう機会とすること，また，講師の指導を受けることで，高度な写真補正技術を習得し，写真による芸術表現を学ぶ機会とすることを目的として開催した。

受講者には事前に，自身のスマートフォンへ「Lightroom ライトルーム（Adobe 社製・写真編集アプリ）」をインストールして参加してもらった。

講座では荒木氏より，スマートフォンの「長時間露光」機能を活用した，人物の写り込みを目立たなくする撮影方法などの紹介があり，実際にモデルと写り込む人を再現して実践した。

その後，参加者たちは“一村の杜”の散策を行いながら，植物や建物などの撮影を講師のアドバイスを受けつつ行った。

撮影終了後，レクチャールームにて Lightroom の機能や操作方法を学び，各自でかすみの除去や明暗を調整するなどの補正作業を行い，作品を自身のイメージに近づけた。最後にクレジットを入れ，作品を完成させた。

講師は，「参加者の飲み込みが早く，素晴らしい作品が完成した。自分が感じたことを表現できるのは自分だけ。その時自分が撮りたいと思ったものを写した写真に失敗はない。カメラの機能やアプリ等も上手く活用し，これからも撮影を楽しんでほしい」と講評した。

参加者からは，「かすみの除去の効果に驚いた。長時間露光の機能を知れてよかった。活用したい」「写真を撮るときの心構えと技術の両方を楽しく，丁寧に教えて頂いて非常に勉強になった。明日から実践したい」と感想をいただいた。

11　その他自主企画事業

（1）学芸専門員派遣授業事業

ア　開催日時　令和5年6月 13 日（火）15：35 ～ 16：05
イ　場　　所　奄美市立名瀬中学校体育館
ウ　参加者数　中学 1 ～3年生 207 名（全校生徒），職員 20 名　計 227 名
エ　内　　容

奄美の自然を描き，日本画の新境地を切り拓いた田中一村の生涯や作品のよさ・美しさへの理解を深める鑑賞教育の一環として，学芸専門員を奄美大島本島内の公立学校へ講師として派遣する事業を行っている。

今年度は，奄美市立名瀬中学校から郷土学習授業の一環で学芸専門員派遣の要請があり，全校生徒に向け授業を行った。担当教諭によると，生徒の多くは田中一村という人物の存在は知っていても，どのような生涯を送ったのか，そもそもなぜ奄美をモチーフに絵を描くことになったのか，など詳しく知らないということで，作品や年表といった視覚的に伝わりやすいスライド構成で解説を行った。

はじめに，「絵画における絵の具の組成（素材によって絵画のジャンルが異なる）」や「一村が取り組んだ日本画とはどういうものか」といった一村をより深く理解する際に役立つポイントを解説した。

また，「一村が奄美の風景を描いたことにどのような意味があったのか」や「田中一村記念美術館の役割」といったことをとおして，「奄美という土地こそが，一村の名を現代に残した」ことを伝えた。

一村をとおして，生徒たちが郷土により愛着と誇りをもち，未来の奄美を担う人材になってもらいたい。

（2）田中一村記念美術館「リモート鑑賞授業」

奄美の自然を描き，日本画の新境地を切り拓いた田中一村の生涯や作品のよさ・美しさへの理解を深める鑑賞教育の一環と，田中一村記念美術館への認知や興味・関心を高め実際に訪れる一助として，鹿児島県内外の学校とリモートで繋ぎ鑑賞教育を推進することを目的として実施している。

① 栃木市立栃木東中学校

ア　開催日時　令和5年6月5日（月）16：15 ～ 17：00
イ　場　　所　田中一村記念美術館館長室～栃木市立栃木東中学校美術室
ウ　参加者数　生徒 31 名，教諭3名　計 34 名
エ　内　　容

栃木市立美術館で開催中の展覧会「明日につなぐ物語」を鑑賞に行くための事前学習ということで，同展覧会に展示されている一村作品を含め各時代の作品や生涯について，スライドを用いて解説した。

始めに，栃木東中学校の先生が，展覧会の概要や美術館鑑賞の意義を説明した後，学芸専門

員が一村の代表作や生い立ちから奄美で没するまでを，事前に受け取っていた生徒からの質問への回答を交えつつ解説した。特に，一村誕生当時の栃木市は，富裕層を中心に南画をはじめ芸術文化への関心が高く，その土地柄が後の「日本画家・田中一村」誕生に影響を与えたことを伝えた。

田中一村のことを知らなかったり，今回の展覧会で初めて本物を観るという生徒がかなりいた。一村が栃木に暮らしたのは6歳までで，また，県内に存在する作品は米邨時代のものが多く，「奄美の一村」をイメージできる作品がないことも要因と考えられる。だからこそ今回のように中学生が，田中一村と自分たちは同郷であるということや，この地が一村を育んだことを知ることは美術教育にとどまらず，郷土学習の観点からも良い機会となった。

オンライン授業ということで，相互通信がうまくいくか不安だったが，授業前に接続確認してから臨んだので，互いの映像や音声が途切れることはなかった。生徒が真摯な姿勢で授業に取り組んでいる様子が画面越しでも伝わってきたので，オンライン授業の可能性を実感することができた。

② 鹿児島市立明和中学校

ア　開催日時　令和5年9月 12 日（月）9：45 ～ 11：35
イ　場　　所　田田中一村記念美術館館長室～鹿児島市立明和中学校
ウ　参加者数　生徒 65 名（32 名 +33 名），教諭2名　計 67 名
エ　内　　容

2年生2クラスの美術の授業における「鑑賞分野」でのオンライン授業を行った。

現在，生徒たちが取り組んでいる絵画分野・風景画における遠近法学習と関連させるため，西洋で確立した「透視図法」を中心とする遠近法と，日本の伝統的な遠近表現の違いや共通点について，一村の代表作『不喰芋と蘇鐵』を例に次の3点を解説した。

⑴ 一般的な掛軸にみられる縦構図画面にモチーフを平面的に配置しつつ，その合間からモチーフ を意図的に配置することによって，鑑賞者の視線を近景から遠景に誘導していること。

⑵ 一村の作品によく見られる，逆光によるダイナミックかつドラマチックな明暗表現でクワズイモの葉や茎，実を立体的かつ色彩豊かに描いていること。

⑶ 日本の伝統絵画だけでなく，ピカソやセザンヌをはじめ，西洋絵画への関心が高かった一村だからこそ描き切れた世界観であること。

また，一村の生涯に触れ，50歳で移住し奄美の自然に触れたことで一村芸術が確立したことを伝えた。併せて，今後生徒たちが美術館に行く際，鑑賞時にいかしてほしいポイントをアドバイスした。

③ 三島村立三島片泊学園

ア　開催日時　令和5年9月 14 日（水）14：10 ～ 15：00
イ　場　　所　田中一村記念美術館館長室～三島村立三島片泊学園
ウ　参加者数　生徒7～9年生（中学1～3年生）生徒 10 名，教諭1名　計 11 名
エ　内　　容

7～9年生（中学生）2クラスの美術の授業における「鑑賞分野」でのオンライン授業を行った。離島のため美術館に行く機会の少ない生徒たちが，リモートで田中一村記念美術館の作品を鑑賞したり，美術館設備や役割について学習できる内容とした。

授業の中で生徒たちへ美術館鑑賞の経験を問うと，ほとんどの生徒が過去に経験ありということだったが，どの生徒も「どのような視点で作品を鑑賞したらよいかわからなかった」「堅苦しい感じがして，あまり楽しめなかった」という感想だった。

そこで，一村の作品や生涯を紹介するだけでなく，今後生徒たちが様々な美術館に行った際，充実した鑑賞を行うことができるよう，「各美術館の展示・作品収集の方針を探る」「キャプションから作者の制作意図を知る」「作品が制作された時の社会的背景を考える」「ギャラリートークやワークショップのイベントに参加する」「美術館の建物に注目してみる」「ミュージアムショップでグッズを購入して思い出として持ち帰る」など，当館や県内美術館を例に挙げてポイントを伝えた。

また，美術館そのものの設立理念や社会における役割なども解説し，特に，博物館法に基づいた美術館の役割「収集・展示」「学術研究」「保存・修復」「教育・普及」があることを伝えたことで，生徒たちが美術館をより深く探究する一助になることを期待したい。

（3）一村キッズクラブ

一村キッズクラブは，奄美の自然を描き続けた日本画家，田中一村を偲び，学ぶ場所として「田中一村終焉の家」を奄美の児童・生徒が大切にすることで，文化芸術や郷土を愛する心を育てるとともに，キッズクラブ会員の相互の親睦を図ることを目的とし，月1回の活動を行っている。

① 5月　スケッチ活動

ア　開催日時　令和5年5月 21 日（日）8：30 ～ 10：00
イ　場　　所　田中一村終焉の家
ウ　参加者数　児童生徒4名・保護者4名・一村会3名　計 11 名
エ　内　　容

令和5年度1回目の活動は，児童生徒4名とその保護者，一村会が参加し，田中一村終焉の家の周りの草取りと室内清掃を行った後，終焉の家周辺に生えている植物のスケッチを行った。

冒頭スケッチを行うにあたり，学芸専門員が一村作品の説明を行った。一村は描く物を観察し，時間をかけて作品を完成させていたことを伝え，自分の目で見て時間をかけて描くことで，その瞬間の気温や音も記憶に残る。同じ植物の葉でも少しずつ色や形が異なるので，全体を捉えながら植物の特徴をよく見ることが大切だとアドバイスした。参加者らは，アオノクマタケランやイトバショウなどの素材を自分で選び，スケッチを行った。

色付けの時間では学芸専門員が実際に色づけをしながら水彩絵具の使い方を指導し，一村も用いていた「たらしこみ」という技法を実演した。参加者らは，植物の色の違うところをよく観察し，何色もの色を組み合わせて丁寧に色付けを行い，作品を完成させた。

参加者からは，「花と葉の大きさのバランスを見極めるのが難しかった」「イトバショウの形がシンプルで色が好きで選んだ。黄色をベースに描いたけれど，よく見ると葉一枚一枚の色が異なることに気が付き，楽しかった」との感想が挙がった。保護者もスケッチに参加し，親子で楽しく活動されていた。

また，一村会の方々とも交流ができ，充実した活動となった。

② 6月　スケッチ活動

ア　開催日時　令和5年6月 18 日（日）8：30 ～ 10：00
イ　場　　所　田中一村終焉の家
ウ　参加者数　児童生徒4名・保護者3名　計7名
エ　内　　容

2回目の活動は，児童生徒4名とその保護者が参加し，田中一村終焉の家の室内清掃を行った後，終焉の家周辺に生えている植物などのスケッチを行った。

当初の計画では，一村終焉の家の清掃活動後，大熊漁港までそれぞれ移動し，一村が通ったであろう道を歩きながら思いを馳せ，一村も描いている大熊の景色をスケッチする予定だったが，雨予報であったため，一村終焉の家の中での活動となった。

参加者は，描く対象を自ら選び採集し，花びらの枚数や形，色などよく観察し，スケッチを行った。また，普段使い慣れた“消しゴム”ではなく，“練り消し”の使用方法を学芸専門員から教わり挑戦した。

参加者からは，「きれいに色付けすることができた」「ハイビスカスのおしべが難しかった」との感想が挙がった。保護者も我が子にアドバイスしながら一緒にスケッチを楽しまれていた。

③ 7月　グラスデコ・スイカ割り

ア　開催日時　令和5年7月 16 日（日）8：30 ～ 10：00
イ　場　　所　田中一村終焉の家
ウ　参加者数　児童生徒6名・保護者6名　計 12 名
エ　内　　容

3回目の活動は，児童生徒6名とその保護者が参加し，田中一村終焉の家の室内清掃を行った後，田中一村の誕生日（7月 22 日）が近かったため，今年が田中一村生誕 115 周年の年にあたることや，命日（9月 11 日），終焉の家のことなどについて学芸専門員が説明を行った。

創作活動では“グラスデコ”というガラスに貼って楽しむシールを作成できる画材を使い，スイカやお花など，それぞれ好きな絵を描いた。（ステンドグラスのような仕上がりになる）参加者は画材がはみ出ないように集中して作業し，単色の画材を駆使して上手にグラデーションを表現している参加者もいた。

また，グラスデコが乾くのを待つ間，デザインのモデルとしたスイカを使って，参加者でスイカ割りのレクリエーションを行い親睦を深めた。

参加者からは，「はじめて作ったけれど上手にできた」「隙間が空かないように枠を描くのが難しかった」との感想が挙がった。保護者も我が子にアドバイスしながら一緒に楽しまれていた。

④ 9月　清掃活動・一村忌

ア　開催日時　令和5年9月10日（日）11：00～14：00
イ　場　　所　田中一村終焉の家
ウ　参加者数　児童生徒5名・保護者4名　計9名　一村会・一般約20名
エ　内　　容

5回目の活動は，田中一村の命日（9月11日）に合わせて一村会が主催する「第35回一村忌」に参加した。

最初に，一村会の方々と終焉の家の清掃活動を行い，その後，祭壇作りや「一村忌」の準備を行った。

「一村忌」には奄美市長や副市長，一般の方々など約20名が参列し，キッズクラブのメンバーも一村の遺影にソテツの葉を手向けて手を合わせ，一村が残した功績に感謝した。その後，続けて行われた「しのぶ会」にも参加し，生前の一村について様々な話を一村会の方々から伺った。

参加者からは，「すてきな絵を残してくれてありがとう」「迫力があって分かりやすく，気持ちが伝わる絵。一村さんの絵を大切に守っていきたい」との感想が挙がった。

⑤ 10月　スケッチ活動

ア　開催日時　令和5年10月15日（日）8：30～10：00
イ　場　　所　田中一村終焉の家
ウ　参加者数　児童生徒4名・保護者3名　計7名
エ　内　　容

6回目の活動は，田中一村終焉の家の清掃活動後，各自，大熊漁港へ移動し，スケッチ活動を行った。

今回のスケッチ活動では「船」を描くことをテーマとし，田中一村も船の絵を描いており，スケッチが残されていることを学芸専門員が説明した。

始めに学芸専門員がデモンストレーションを行い，スケッチを行う際にはまず全体を大きく捉えて大まかに描き，細かいところは後から描き足していくと描きやすいとアドバイスを行った。

参加者は船をよく観察しながら，集中してスケッチ活動に取り組み，「船のブイなど細かいところが難しかった」「外で描けて楽しかった」との感想が挙がった。

⑥12月　年賀状制作活動

ア　開催日時　令和5年12月17日（日）8：30～10：00
イ　場　　所　田中一村終焉の家
ウ　参加者数　児童生徒3名・幼児2名，保護者4名　計9名
エ　内　　容

7回目の活動は，田中一村終焉の家の清掃後，年賀状制作を行った。

今回の活動では葉書サイズの水彩画に適した用紙を使用し，鉛筆で下絵を描いた後，岩絵具や水彩絵具で彩色した。学芸専門員が水彩画の様々な技法や描き方を見せながら説明し，参加者は学んだ技法を上手に取り入れて来年の干支である龍などの絵を描いていた。

また，ドライヤーを使って手早く絵具を乾かす方法もあると知り，各自挑戦していた。

参加者からは，「水で紙が曲がるのをマスキングテープで先生が固定して下さり，描きやすかった。学校や家でも実践したい」「好みの色を作ることができて嬉しかった」「ドライヤーで乾かすのが面白かった」との感想が挙がった。

⑦1月　モザイクアート作り

ア　開催日時　令和6年1月21日（日）8：30～10：00
イ　場　　所　田中一村終焉の家
ウ　参加者数　児童生徒4名・幼児2名　保護者3名，奄美中央ロータリークラブ　計12名
エ　内　　容

奄美中央ロータリークラブが御殿浜（うどんばま）公園（奄美市名瀬小浜）に新しく設置するベンチに，タイルを用いたモザイクアートで装飾を施して欲しいとの依頼が一村キッズクラブにあったことから，8回目の活動では，田中一村終焉の家の清掃後，制作するにあたってのイメージ作りとしてモザイクアート制作に挑戦した。

始めに，奄美中央ロータリークラブの方から実際に使用するタイルを見せていただきながら，今回の取組の説明を受けた。ベンチを設置する公園が海のそばにあることから，デザインを海の生き物や船など，“海に関連するもの”をテーマに設定した。

学芸専門員がモザイクアートについて資料を使って説明した後，参加者は画用紙をタイルに見立ててはさみで切り，画板の上に並べて海の生き物などの形を作った。完成したモザイクアートをハ

レパネに貼り付け，ラップで巻いて作品を完成させた。

参加者からは,「とても面白かった。次回の本番が楽しみ」「形を作るのがとても難しかった」「練習することで，イメージがつかめた」との感想が挙がった。

⑧２月　モザイクアート作り

ア　開催期間　令和6年2月 18 日（日）８：30 ～ 12：00

イ　場　　所　御殿浜公園（奄美市名瀬小浜）

ウ　参加者数　児童生徒5名・幼児2名　保護者6名　計 13 名　他　奄美中央ロータリークラブ会員等

エ　内　　容

奄美中央ロータリークラブから御殿浜公園に新しく設置するベンチに，タイルを用いたモザイクアートで装飾を施して欲しいとの依頼が一村キッズクラブにあり，クラブ員の了解を得て御殿浜公園で活動を行った。

始めに，奄美中央ロータリークラブの方から今回の取組の趣旨や活動を行う上での注意点などの説明を受け，それぞれ親子で試行錯誤しながら様々な形のタイルを組み合わせ，イメージしたクラゲやイルカ，ウミガメ，エイなど海の生き物の形をベニヤ板の上に形作った。

その後，ベンチ周辺に作品を貼り付ける位置を決め，職人がモルタルを塗った上に形作ったタイルを貼り，アートを完成させた。

参加者からは，「タイルを組み合わせるのが難しかったが，考えることが楽しかった」「このベンチを見て，海の生き物がゴミを食べてしまわないようにポイ捨てをしないなど，海を大切にしてほしい」との感想が挙がった。

第5　奄美パーク応援隊

（1）結成目的

奄美パークの活動を支援し，魅力ある施設実現の一助とし，ひいては奄美群島の観光振興に寄与することを目的とする。

（2）隊員数　32 名（令和6年3月31日現在）

（3）年間活動実績回数　40 回

（4）活動内容

奄美パーク応援隊は，施設内のガイドを目的に平成15年度に発足した。平成18年度には，展示案内ガイド・手熟ガイド・園芸サポーター・一村サポーターと，4つの分科会を設けたが，それぞれの活動頻度が異なり分科会によっては，活動実績がない状況にあったため，再度，活動のあり方を見直した結果，平成26年度より分科会を廃止し，展示案内・手熟（三味線やしまうた等）の披露・園芸活動・美術館活動・その他活動（奄美パークが企画したイベント，業務等への参加，園内の清掃）と，5つの活動内容で構成し，隊員はそれぞれ得意な分野や興味のある分野を中心に参加することとした。隊員には登録証を発行し，ボランティア活動保険への加入と，原則，年に2回以上の活動を義務付けている。また，応援隊の活動時以外でも，隊員証を提示することで奄美パークの有料ゾーンに入ることができる。

なお，事務局は月に一度，活動の予定や奄美パークの行事予定，活動報告などを掲載した「応援隊通信」を発行し，すべての隊員へ配付している。

（5）活動実績

令和5年度は，新規隊員が3名，昨年度から引き続き更新のあった隊員が29名，計32名の加入申し込みがあった。

月2回の六調三線の練習は，固定メンバーを中心に，初参加の方なども暖かく迎え入れ楽しい雰囲気で行われていた。三線や太鼓の体験，団体バスの出発に合わせての六調でのお見送り等，来園者との交流が好評であった。10月15日には，かごしま国体に伴った高円宮承子女王殿下の御視察があり，赤木名八月踊り保存会の皆さんと共に，六調を披露していただいた。また，令和6年１月14日の奄美パーク自主企画イベント「初春唄あしび」でも，最後の締めの六調の演奏をお願いした。

園芸作業は，2階テラスの花壇の整備を中心に行った。9月にレストランが再オープンしたこともあり，テラスへと足を延ばす来園者も増えたので，「作業のやりがいがある」との感想もあり，花苗や肥料の提供もしてくださるなど，季節を問わず花が見られるようになった。

10月19日には，社員旅行の団体から依頼を受け展示案内を行った。奄美についての歴史や産業等についての短い講話の後，総合展示ホール内でも様々な質問に答えていただいた。また，大島紬の機織りの実演もしていただき，男女問わず若い世代が熱心に見学していた。

新規隊員の獲得や，高年齢化等の課題もあるが，今後も，観光客の方とのふれあいや，パークの整備など，より充実した活動を行っていけるよう，隊員の皆さんのお力をお借りしたい。

鹿児島県奄美パーク　令和５年度事業報告書

2023 LEAF　第２２号

［発行日］２０２４年１２月

［編集・発行］奄美群島広域事務組合

鹿児島県奄美パーク

住所：鹿児島県奄美市笠利町節田１８３４

電話：0997-55-2333　FAX：0997-55-2612

公式サイト：https://amamipark.com/